KAGAWA UNIVERSITY

香　川　大　学

インターナショナルオフィス年報

第３号（2011年度）

【インターナショナルオフィス全体に関わる報告】
香川大学国際化の基本方針と重点戦略課題 …… 1
学術交流協定一覧 …… 2
平成23年度国際交流資金事業実施状況 …… 4
平成23年度年間行事 …… 5
2011年度学長等表敬訪問 …… 6
FD･SD ワークショップ …… 8
平成23年度学長主催外国人留学生交歓会 …… 10
高松市・セントピーターズバーグ市姉妹都市提携50周年記念パネル展
及び講演会・懇談会 …… 11

【国際研究支援センターに関わる報告】
第４回香川大学・チェンマイ大学合同シンポジウムの開催準備状況 …… 12
国際研究支援センター研究会シリーズ …… 14
学術交流協定大学との交流状況 …… 15
外国人研究者等の受け入れ状況 …… 17
平成23年度国際学会・シンポジウム開催状況 …… 20
国際ワークショップ「国際遠隔医療の新展開へ向けた産学官民の連携」 21

【留学生センターに関わる報告】
日本語教育カリキュラム等の報告 …… 22
相談（交流推進）事業の報告 …… 27
海外語学研修プログラムの報告 …… 30
日本語語学研修プログラム報告 …… 32
留学生対象各種進学説明会 …… 38
課外教育行事 …… 40
地域住民との交流および連携 …… 41
就職支援プログラム …… 43

【資　料】
インターナショナルオフィス規則 …… 45
インターナショナルオフィス会議規程 …… 48
国際研究支援センター規程 …… 50
留学生センター規程 …… 52
教職員一覧 …… 54

香川大学インターナショナルオフィス年報

第３号（2011年度）

目　　次

【インターナショナルオフィス全体に関わる報告】
香川大学国際化の基本方針と重点戦略課題 …… 1
学術交流協定一覧 …… 2
平成23年度国際交流資金事業実施状況 …… 4
平成23年度年間行事 …… 5
2011年度学長等表敬訪問 …… 6
FD･SD ワークショップ …… 8
平成23年度学長主催外国人留学生交歓会 …… 10
高松市・セントピーターズバーグ市姉妹都市提携50周年記念パネル展
及び講演会・懇談会 …… 11

【国際研究支援センターに関わる報告】
第４回香川大学・チェンマイ大学合同シンポジウムの開催準備状況 …… 12
国際研究支援センター研究会シリーズ …… 14
学術交流協定大学との交流状況 …… 15
外国人研究者等の受け入れ状況 …… 17
平成23年度国際学会・シンポジウム開催状況 …… 20
国際ワークショップ「国際遠隔医療の新展開へ向けた産学官民の連携」 …… 21

【留学生センターに関わる報告】
日本語教育カリキュラム等の報告 …… 22
相談（交流推進）事業の報告 …… 27
海外語学研修プログラムの報告 …… 30
日本語語学研修プログラム報告 …… 32
留学生対象各種進学説明会 …… 38
課外教育行事 …… 40
地域住民との交流および連携 …… 41
就職支援プログラム …… 43

【資　料】
インターナショナルオフィス規則 …… 45
インターナショナルオフィス会議規程 …… 48
国際研究支援センター規程 …… 50
留学生センター規程 …… 52
教職員一覧 …… 54

香川大学　国際化の基本方針と重点戦略課題

～地域との連携を基盤に、地域に根ざした国際化を推進～　平成23年1月31日役員会審議承認

基　本　方　針

○地域に根ざした国際化

●社会・経済のグローバル化や地球規模の課題に対応し、アジア・太平洋諸国等をはじめ、広く国際社会に貢献できる分野を重点に、海外の大学・研究機関等との学術・研究交流を促進する。

●大学の持つ国際化に関する知識・経験やネットワークを地域と共有し、地域の行政、企業、住民等の国際化へのニーズに応える。

●人と人とのつながりを基本に、地域の様々な国際交流活動との連携を深め、地域の国際化に貢献する。

○国際的通用性を備えた人材の育成

●世界で活躍できる国際性豊かなグローバル人材を育成するとともに、アジア・太平洋諸国等から優れた留学生・研究者を受け入れ、相互の人材育成・交流を促す、双方向のグローバル教育を実践する。

●世界を舞台とする社会貢献やキャリアデザインにつながるグローバルな学生交流の機会を提供する「世界の若者に開かれた大学」を目指す。

●海外留学や国際ボランティアなど、国際的な視野を拡げ、経験を豊かにする学生の活動を積極的に支援する。

○国際化のための環境整備

●海外の大学等との学生・研究者の相互派遣の拡大に向け、海外交流拠点のネットワーク整備を進めるとともに、教職員や学生による国際的な研究・交流活動を積極的に支援する。

●国際的な学術交流の促進に向け、研究環境のより一層の充実・強化を図るとともに、留学生の生活面を含めた教育環境の整備を地域の支援・協力を得ながら進める。

●多様な言語やライフスタイルを持つ海外からの留学生・研究者と本学学生・教職員との自由闊達な交流を促す「キャンパスの国際化」を推進する。

重点戦略課題

●海外の大学・研究機関等との間で重点化すべき学術・研究交流分野の抽出並びに情報発信
・各学部における研究成果や研究テーマの整理・データベース化、国際的な学術交流ニーズ、国際社会への貢献可能性などを踏まえ、重点分野を抽出し、ターゲットとすべき大学・研究者等に向けて情報発信

●地域を交えた国際交流活動などによる地域の国際化への貢献
・地域の自治体や企業等の交流ニーズを踏まえ、協定大学をはじめ、相互交流を促進する相手国・大学等を重点化するとともに、地域を交えた国際交流活動などを通じ、地域の国際化に貢献

●グローバル人材の育成に向けたプログラム化
①グローバル人材に求められる能力要素を踏まえて教育プログラムを見直し、各学部・大学院カリキュラムに反映
（例：英語による教養・専門科目、ディベートなどの必修化、各年次・卒業までに到達する語学力の目標水準を能力に応じて設定し、着実に達成）
②協定大学とのネットワークを活かした多言語プログラムや多様な留学コースを設置し、単位化するなどにより、学生の国際的視野を早期に拡大
③アジア・太平洋諸国等から優秀な留学生や研究者を受け入れ、本学の学生との一体的な教育や、研究者間相互の学術交流を促す特色あるコースを設置し、大学のブランド化を促進

●海外交流拠点のネットワークを効果的に整備するため、協定大学を重点対象として、交流内容や諸条件を打診・調整

●留学生・外国人研究者のニーズや視点に立った支援の仕組みを整備するとともに、「キャンパスの国際化」を実現
①留学生・外国人研究者のキャリア形成と地域社会の国際化ニーズをマッチングする仕組みを、地域の行政や企業等の支援・協力を得ながら構築
②多言語による情報提供のシステム化や、美しく安全で快適なキャンパスを目指した点検・整備

学術交流協定一覧

（2012年３月31日現在）

●大学間協定〔14カ国・地域　42機関〕

機関名	国・地域名	大学間協定締結年月日	実施細則等締結部局
カセサート大学	タイ王国	1988年８月25日 再締結（1999年1月20日）	農学部、大学院農学研究科
チェンマイ大学	タイ王国	1990年４月24日	農学部、大学院農学研究科 工学部、大学院工学研究科 教育学部 医学部、大学院医学系研究科 医学部看護学科、大学院医学系研究科看護学専攻
ルイビル大学	アメリカ合衆国	1997年９月２日	法学部、大学院法学研究科
サボア大学	フランス共和国	2000年３月24日	工学部、大学院工学研究科
南京農業大学	中華人民共和国	2001年７月４日	農学部、大学院農学研究科
ミュンヘン工科大学	ドイツ連邦共和国	2002年２月13日	工学部、大学院工学研究科
メチョー大学	タイ王国	2002年３月７日	農学部、大学院農学研究科
国立政治大学	台湾	2002年３月19日	法学部、大学院法学研究科
ライン・マイン大学	ドイツ連邦共和国	2002年９月23日	経済学部、大学院経済学研究科 農学部
コロラド州立大学	アメリカ合衆国	2002年10月８日	－
韓国海洋大学	大韓民国	2002年12月18日	工学部、大学院工学研究科
上海大学	中華人民共和国	2003年９月１日	工学部、大学院工学研究科 経済学部、大学院経済学研究科
ハルビン工程大学	中華人民共和国	2005年２月23日	工学部、大学院工学研究科 大学院地域マネジメント研究科
大邱大学	大韓民国	2005年５月17日	経済学部
カディス大学	スペイン	2006年１月31日	農学部、大学院農学研究科
南ソウル大学	大韓民国	2006年３月７日	工学部、大学院工学研究科 経済学部
中国海洋大学	中華人民共和国	2006年12月19日	法学部、大学院法学研究科
アアルト大学化学技術学部	フィンランド共和国	2007年３月13日	農学部、大学院農学研究科
真理大学	台湾	2007年６月11日	経済学部
西北大学	中華人民共和国	2007年10月17日	経済学部
南ボヘミア大学	チェコ共和国	2008年11月12日	－
ハンバット大学	大韓民国	2008年11月14日	工学部、大学院工学研究科
北京工業大学	中華人民共和国	2008年12月11日	工学部、大学院工学研究科
電子科技大学	中華人民共和国	2009年６月１日	工学部、大学院工学研究科
天津農学院	中華人民共和国	2009年６月４日	農学部、大学院農学研究科
フランシュ・コンテ大学	フランス共和国	2009年７月24日	工学部、大学院工学研究科
ブルネイ・ダルサラーム大学	ブルネイ・ダルサラーム国	2009月11月８日	－
チュラロンコン大学	タイ王国	2010年２月１日	－
シェレバングラ農科大学	バングラデシュ人民共和国	2010年５月10日	農学部、大学院農学研究科
コンピエーネ技術大学	フランス共和国	2010年７月８日	工学部、大学院工学研究科
トリブバン大学	ネパール連邦民主共和国	2010年11月２日	－
ムルシア大学	スペイン	2010年12月９日	－
バッタンバン大学	カンボジア王国	2010年12月９日	農学部、大学院農学研究科
王立農業大学	カンボジア王国	2010年12月13日	農学部、大学院農学研究科
カリフォルニア大学デービス校 カリフォルニア大学理事会	アメリカ合衆国	2011年２月１日	－
誠信女子大学	大韓民国	2011年２月21日	－
セントピーターズバーグ大学	アメリカ合衆国	2011年２月28日	－
リモージュ大学	フランス共和国	2011年３月14日	工学部、大学院工学研究科
北京外国語大学	中華人民共和国	2011年３月29日	－
武漢理工大学	中華人民共和国	2011年５月30日	工学部、大学院工学研究科
河南農業大学	中華人民共和国	2011年８月15日	農学部、大学院農学研究科
長春理工大学	中華人民共和国	2012年１月16日	工学部、大学院工学研究科

●部局間協定〔13カ国・地域　24機関〕

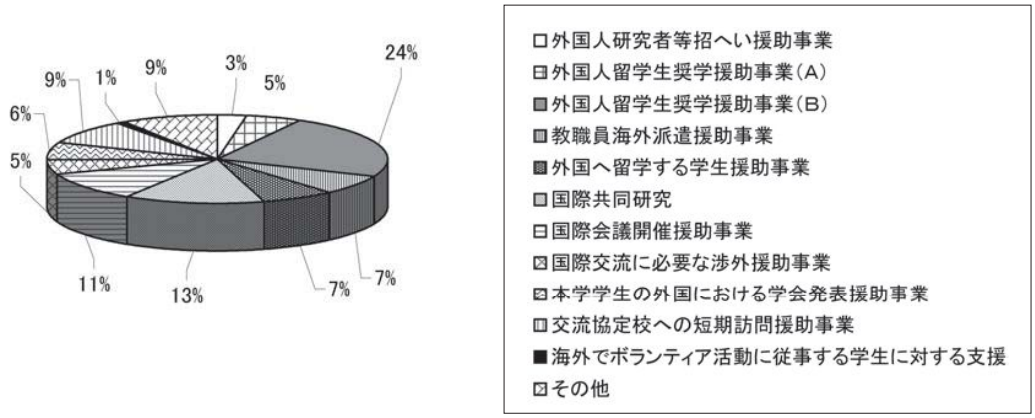
部局名	機関名	国・地域名	部局間協定締結年月日
教育学部	清州大学人文学部	大韓民国	2001年7月9日
教育学部	クライストチャーチ・ポリテクニック工科大学	ニュージーランド	2002年1月23日
教育学部、大学院教育学研究科	江西師範大学国際教育学院	中華人民共和国	2005年2月25日
法学部、大学院法学研究科	上海社会科学院法学研究所	中華人民共和国	1996年9月2日
法学部、大学院法学研究科	華東政治法律大学	中華人民共和国	1996年9月5日
経済学部、大学院経済学研究科	ボン＝ライン＝ズィーク大学経済学部	ドイツ連邦共和国	2000年12月15日
医学部	カルガリ大学医学部	カナダ	1989年7月31日
医学部	中国医科大学	中華人民共和国	1997年8月28日
医学部	河北医科大学	中華人民共和国	2001年11月27日
医学部	ブルネイ・ダルサラーム国保健省	ブルネイ・ダルサラーム国	2009年12月5日
工学部、大学院工学研究科	ブリティッシュコロンビア大学応用科学部	カナダ	2001年7月31日
工学部、大学院工学研究科	ボン＝ライン＝ズィーク大学	ドイツ連邦共和国	2002年2月12日
工学部、大学院工学研究科	国立高等精密機械大学院大学	フランス共和国	2009年1月28日
工学部、大学院工学研究科	トレド大学	アメリカ合衆国	2009年3月30日
工学部、大学院工学研究科	ロバニエミ応用科学大学	フィンランド共和国	2009年6月1日
工学部、大学院工学研究科	漢陽大学工学部第四群	大韓民国	2010年4月14日
工学部、大学院工学研究科	ハルムスタッド大学情報科学部	スウェーデン王国	2011年4月18日
工学部、大学院工学研究科	北京師範大学化学学院	中華人民共和国	2012年3月31日
農学部、大学院農学研究科	ダッカ大学生物科学部	バングラデシュ人民共和国	1998年12月15日
農学部、大学院農学研究科	ミシガン州立大学農学・自然資源学部	アメリカ合衆国	1999年3月22日
農学部、大学院農学研究科	ボゴール農業大学農学部、大学院研究科	インドネシア共和国	2000年6月13日
農学部、大学院農学研究科	西オーストラリア大学自然科学・農学部	オーストラリア連邦	2002年3月28日
農学部、大学院農学研究科	浙江工商大学食品及び生物工程学院、大学院研究科	中華人民共和国	2002年9月12日
農学部、大学院農学研究科	ブルゴーニュ大学アグロスップ校	フランス共和国	2010年6月1日

●連携協力協定（3件）

協定	連携協力機関	締結年月日
国際メカトロニクス研究教育機構に関する一般協定	サボア大学、国立高等精密機械大学院大学、フランシュ・コンテ大学、電気通信大学、東京電機大学、首都大学東京、産業技術大学院大学、高等機械大学院大学、リモージュ大学、コンピエーネ技術大学三重大学	2009年1月30日
地球ディベロプメントサイエンス国際コンソーシアムの設立に関する一般協定	グラム・バングラ	2010年2月16日
熱帯農業に関するSUIJI(Six University Initiative Japan Indonesia)コンソーシアム協定	ガジャマダ大学、ボゴール農業大学、ハサヌディン大学、愛媛大学、高知大学	2011年3月16日

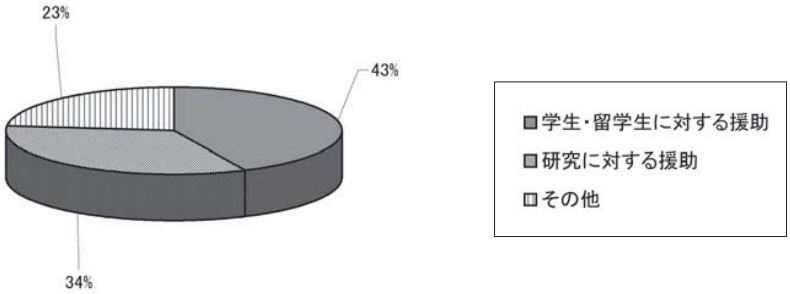
平成 23 年度香川大学国際交流資金実施状況

平成 23 年度香川大学国際交流資金各事業実施割合



事業名	実施額(千円)	割合
外国人研究者等招へい援助事業	300	3%
外国人留学生奨学援助事業(A)	600	5%
外国人留学生奨学援助事業(B)	2,640	24%
教職員海外派遣援助事業	800	7%
外国へ留学する学生援助事業	800	7%
国際共同研究	1,500	13%
国際会議開催援助事業	1,200	11%
国際交流に必要な渉外援助事業	600	5%
本学学生の外国における学会発表援助事業	700	6%
交流協定校への短期訪問援助事業	1,000	9%
海外でボランティア活動に従事する学生に対する支援	100	1%
その他	1,035	9%
計	11,275	100%

平成 23 年度香川大学国際交流資金事業



事　業	実施額(千円)	割合
学生・留学生に対する援助	4,840	43%
研究に対する援助	3,800	34%
その他	2,635	23%
計	11,275	100%

平成 23 年度インターナショナルオフィス年間行事

月　　日	行　　事
4 月 9 日㈯	春期新入留学生ガイダンス・歓迎会(情報交換会)
4 月18日㈪	本学工学部及び大学院工学研究科とハルムスタッド大学情報科学部との学術交流協定等　締結
5 月25日㈬	夏季海外語学研修ガイダンス・研修生帰国報告会
5 月27日㈮	香川県留学生等国際交流連絡協議会運営委員会
5 月30日㈪	本学と武漢理工大学との学術交流協定等　締結
6 月 2 日㈭	平成23年度インターナショナルオフィス第1回 FD・SD ワークショップ
6 月27日㈪	平成23年度国際研究支援センター研究会シリーズ第1回
6 月27日㈪～ 7 月 8 日㈮	第15回日本語語学研修プログラム(2W)
6 月30日㈭	香川県留学生等国際交流連絡協議会総会
7 月 3 日㈰	日帰り旅行(小豆島)(KUFSA と ICES 主催)
7 月22日㈮	平成23年度国際研究支援センター研究会シリーズ第2回
7 月25日㈪	北京大学学生と香川大学学生との交流行事
7 月29日㈮	本学医学部及び大学院医学系研究科とチェンマイ大学医学部及び大学院医学系研究科との学術交流協定に関する実施細則　締結
8 月 2 日㈫	平成23年度インターナショナルオフィス第2回 FD・SD ワークショップ
8 月15日㈪	本学と河南農業大学との学術交流協定等　締結
9 月15日㈭	進学相談会(穴吹ビジネスカレッジ日本語学科)
9 月18日㈰	熱帯農業に関する SUIJI(Six University Initiative Japan Indonesia)ジョイント・ディグリー・プログラム覚書　締結
9 月28日㈬～29日㈭	平成23年度第1回外国人留学生課外教育行事
9 月29日㈭	紫雲中学校との国際交流
9 月30日㈮	2011年度進学ガイダンス(岡山外語学院)
10月 3 日㈪	JENESTS プログラム韓国学生との国際交流行事
10月 8 日㈯	秋期新入留学生ガイダンス、チューター説明会・情報交換会
10月17日㈪	桜町中学校との国際交流
10月20日㈭	平成23年度国際研究支援センター研究会シリーズ第3回
10月20日㈭	本学とコンピエーネ技術大学とのオープンレクチャー試行のための細則　締結
10月25日㈫	本学工学部及び大学院工学研究科とリモージュ大学高等工学院とのオープンレクチャー試行のための細則　締結
10月26日㈬～11月13日㈰	「第1回姉妹・友好都市週間 in 高松」パネル展
10月30日㈰	海外留学フェア
10月31日㈪	平成23年度第2回外国人留学生課外教育行事
11月 4 日㈮	平成23年度外国人留学生等の入国・在留に関する実務懇談会(香川県留学生等国際交流連絡協議会主催)
11月11日㈮	高松市・セントピーターズバーグ市姉妹都市提携50周年記念講演会・懇談会
11月18日㈮	国際ワークショップ「国際遠隔医療の新展開へ向けた産学官民の連携」
11月22日㈫	本学とメチョー大学との間の学術交流協定書等　締結(協定締結大学側の組織再編による再締結)
11月29日㈫	平成23年度インターナショナルオフィス第3回 FD・SD ワークショップ
12月 1 日㈭	学長主催外国人留学生交歓会
12月 1 日㈭	本学教育学部とクライストチャーチ・ポリテクニック工科大学との学術交流協定書等　締結(協定締結大学側の組織再編による再締結)
12月10日㈯～11日㈰	日本留学フェア(マレーシア:クアラルンプール)
12月15日㈭	ブルネイ・ダルサラーム大学と香川大学の学生交流会
12月18日㈰	外国人留学生就職活動準備セミナー(バスツアー)
1 月 7 日㈯	留学生お正月会(KUFSA・ICES・ライオンズ・仏生山と綾川国際交流会)
1 月13日㈮	留学生のための就職セミナー＆ビジネスマナー講座
1 月16日㈪	本学と長春理工大学との学術交流協定書等　締結
1 月19日㈭	平成23年度国際研究支援センター研究会シリーズ第4回
1 月30日㈪～ 2 月10日㈮	第16回日本語語学研修プログラム(2W)
2 月22日㈬	国際メカトロニクス研究教育機構の加入に関する一般協定(三重大学)　締結
2 月29日㈬	企業見学会(香川県留学生等国際交流連絡協議会共催)
3 月 7 日㈬	本学医学部看護学科及び大学院医学系研究科看護学専攻とチェンマイ大学看護学部及び大学院看護学系研究科との学術交流協定に関する実施細則　締結
3 月23日㈮	内海国際プラットフォーム(ISIP)・キックオフシンポジウム
3 月31日㈯	本学工学部及び大学院工学研究科と北京師範大学化学学院との学術交流協定等　締結

(注) ※KUFSA：Kagawa University Foreign Student Association 香川大学留学生会
ICES：Kagawa University Inter-Cultural Society 香川大学異文化交流会

2011 年度学長等表敬訪問

7 月25日　北京大学（中国）
北京大学の学生代表 2 名と引率者が学長を表敬訪問
国際交流基金による北京大学現代日本研究センター訪日研修で学生19名が本学を訪問
留学生を含む本学の学生38名と交流会を実施

8 月26日　SS&SV プログラムの学生（中国、タイ、アメリカ）
農学部にショートステイする外国人学生13名が田島インターナショナルオフィス長を表敬訪問
平成23年度日本学生支援機構留学生交流支援制度（ショートステイ・ショートビジット）
SS&SV プログラムに採択となった本学の協定校からの学生
約 1 か月間、農学部のプログラムや企業でのインターンシップに参加

9 月12日　サボア大学（フランス）
Laurent Foulloy 教授がインターナショナルオフィス長を表敬訪問
サボア大学とは2000年に学術交流協定を締結後、工学部を中心に活発に交流を行っている

11月11日　大阪・神戸アメリカ総領事
パトリック・ジョセフ・リネハン大阪・神戸アメリカ総領事が学長を表敬訪問
「第 1 回　姉妹・友好都市週間 in 高松」の記念事業の 1 つとして高松市と共催した記念講演会・懇談会のため招へい

11月25日　チェンマイ大学（タイ）
教職員 4 名と学生 9 名がインターナショナルオフィス長を表敬訪問
平成24年度日本学生支援機構留学生交流支援制度（ショートステイ・ショートビジット）
SS&SV プログラムによる、異文化体験やセミナーの開催等のため 6 日間滞在

1 月16日　長春理工大学（中国）
于化東学長が本学との学術交流協定、学生交流プログラムに関する実施細則の調印式のため来日
工学部を中心に活発な交流が期待される

1 月25日　チェンマイ大学（タイ）
医学部生 6 名がインターナショナルオフィス長を表敬訪問
平成24年度日本学生支援機構留学生交流支援制度（ショートステイ・ショートビジット）
SS&SV プログラムによる、講義や実習を受けるために12日間滞在

1月31日　日本語語学研修プログラム研修生（韓国、台湾）
学生9名がインターナショナルオフィス長を表敬訪問
日本語・日本事情等の授業、日本文化体験、ホームステイ等を2週間行う

3月8日　チェンマイ大学（タイ）
Dr. Thanaruk Suwanprapisa 看護学部長・大学院看護学系研究科長他2名がインターナショナルオフィス長を表敬訪問
本学医学部看護学科及び大学院医学系研究科看護学専攻とチェンマイ大学看護学部及び大学院看護学系研究科との学術交流協定の調印のため来学

FD･SD ワークショップの実施

インターナショナルオフィスでは、本学の国際交流活動や国際戦略等に対して教職員の理解と連携を深め、より一層国際交流の推進を目指すことを目的に、平成22年度から８回シリーズでFD･SDワークショップを企画し、平成23年度は第５回から第７回までを実施した。

	実施日時	テーマ・内容
第１回	H22年５月	インターナショナルオフィスの仕組みと体制
第２回	H22年８月	香川大学の国際戦略～インターナショナルオフィスからの提言
第３回	H22年10月	国際学術交流推進に向けて～国際研究支援センターの取り組み
第４回	H23年２月	留学生の受け入れと本学の体制
第５回	H23年６月	本学における学生の海外派遣の現状と課題
第６回	H23年８月	本学各学部における学生の国際交流プログラム（受入れ・派遣）の実情と展望について
第７回	H23年11月	国際教育・研究・交流における香川大学と地域との連携
第８回	H24年４月（予定）	総括シンポジウム

第５回は、平成23年６月２日㈭に開催した。インターナショナルオフィス正楽講師から「本学における学生の海外派遣の現状と課題」について、経済学部高木教授から「ラインマイン大学経済学部との交流について」、工学部高橋教務職員から「平成23年度国際インターンシップ派遣候補生募集要項」について発表があった。

発表に引き続いての意見交換では、国際交流資金で派遣された学生の発表の場を設け、後輩に経験を伝えていくようにしてはどうか、長期派遣は就職の問題があるので、どのように対応していくか、などの議論がなされた。

第６回は、平成23年８月２日㈫に開催した。インターナショナルオフィス塩井講師から「本学各部局における学生の国際交流プログラム（受け入れ・派遣）の実情と展望について」、教育学部バテン講師から「A Report on the CMU-SGU-KU Student Intercultural Exchange Programme」について、経済学部ラナデ教授から「経済学部における国際交流プログラムについて」、工学部澤田教授から「工学部における国際化への取組－国際インターンシップを中心として－」、農学部合谷教授から「日本の食の安全留学生特別コース」について、医学部徳田教授から「医学部：ブルネイ・ダルサラーム大学との学生派遣・受入れプログラム」について発表があった。

発表に引き続いての意見交換では、各学部がやっている個々の取組を、横の連携を強化することにより、派遣先で学部の違う学生の交流や協働できる機会があればよいのではないか、香川大学の留学スタイルとして、まずは短期で文化や言葉に触れ、次のステップで専門教育のために留学するという流れを制度化すればよいのではないか、などの議論がなされた。

第７回は、平成23年11月29日㈫に開催した。インターナショナルオフィス高水講師による「国際教育・研究・交流における香川大学と地域との連携」について概要説明の後、インターナショナルオフィス飯田副オフィス長から「国際的な研究交流の活性化に向けて」、インターナショナルオフィスロン副オフィス長から「留学生センターにおける教育・交流・連携の取り組み」の発表があった。

発表に引き続いての意見交換では、組織横断型の研究支援の在り方や、国際と産業の地域連携をどのように教育に繋げていくか、学内の国際戦略の意識改革をいかに進めるべきか、などについて議論がなされた。

平成23年度学長主催外国人留学生交歓会

香川大学では、外国人留学生、教職員及びチューター等日本人学生や、地域や国際交流団体の方々との親睦を深めるため、学長主催による外国人留学生交歓会を開催している。平成23年度は、12月１日㈭にオークラホテル高松において開催し、250名が参加した。

仏生山国際交流会の方々のご厚意により和装した、留学生の経済学部３年許　璋偉（シュウ　チャン　ウェイ）さん、工学部４年 DINH Thi Kim Ngan（キム　ガン）さんが司会進行を行い、長尾学長の挨拶に続き、留学生代表の経済学部２年雷　錕（ライ　コン）さんの挨拶、板野総務・研究担当理事による乾杯の音頭で開始された。懇談の合間には、農学部留学生によるタイの民族舞踊や、吹奏楽団による演奏などのパフォーマンスが披露された。さらに、香川大学異文化交流会（ICES）の司会により、学長と留学生によるじゃんけん大会が行われ、上位者にはプレゼントも贈呈され、大いに盛り上がった。

最後にマレーシアの民族衣装を身にまとったロン留学生センター長による挨拶で交歓会を締めくくった。これを機に本学の留学生達が、さらなる交流の輪を広げ、日本での留学生活を充実したものにしてくれることを願う。

高松市・セント・ピーターズバーグ市姉妹都市提携50周年
パネル展及び記念講演会・懇談会

香川大学インターナショナルオフィスは、高松市が実施する「第１回　姉妹・友好都市週間 in 高松」の記念事業の１つとして、本学図書館中央館においてセントピーターズバーグ市内及び大学のパネル展を平成23年10月26日㈬～11月13日㈰の間で開催した。

本学は、平成23年２月28日にセントピーターズバーグ大学と学術交流協定を締結しており、大学の位置するセントピーターズバーグ市と高松市が姉妹都市提携50周年にあたることから、記念事業の１つとしてパネル展を開催したものである。

パネル展では、セントピーターズバーグ大学の様子や市内の様子、香川大学の国際交流の状況などを紹介するパネルを展示した。

併せて、「第１回　姉妹・友好都市週間 in 高松」の記念事業の１つとして、平成23年11月11日㈮にパトリック・ジョセフ・リネハン大阪・神戸アメリカ総領事をお招きし、高松市と共催で記念講演会・懇談会を開催した。

講演会・懇談会に先立って行われた学長表敬訪問では、本学からは長尾学長、板野理事、竹中教育学部副学部長他が出席した。

講演会には本学学生、高松市職員、県内の国際交流団体の方々など約250名が参加し、ロン留学生センター長による「セント・ピーターズバーグ大学、香川大学の紹介」、平教育学部教授による「留学のすすめ」の講演のあと、リネハン総領事による記念講演「姉妹都市交流、日本とアメリカ」が行われ、参加者は熱心に耳を傾けていた。リネハン総領事は流ちょうな日本語でジョークを交えながら、英語上達のこつや、「外国に行き、その国の歴史・文化を理解する中で、母国のことが初めて分かるようになる」とアドバイスした。

講演会に引き続き行われた懇談会には約120名が参加し、学生らは英語で積極的に総領事に質問し、活発な意見交換が行われた。

第４回香川大学・チェンマイ大学合同シンポジウムの開催準備状況

インターナショナルオフィス　細　田　尚　美

香川大学・チェンマイ大学合同シンポジムの開催については、平成20年10月に香川大学において開催された第２回の同シンポジウムにおいて、開催は２年毎にすること、両大学が交代で主催することが決定した。これにより、第４回合同シンポジウムは平成24年に香川大学で開催することが決まっている。（なお、下記の内容は平成24年３月31日現在のものである。）

第４回合同シンポジウムの準備は、平成22年11月から始められた。開催準備を行う組織委員会メンバー（下記リスト参照）が選ばれ、委員長はインターナショナルオフィス委員の澤田秀之（工学部）が務めることが決まった。同様に、チェンマイ大学側ではプログラム委員会メンバーが選ばれ、Nat Vorayos副学長が代表を務めることが決まった。平成23年度には、香川大学の準備委員会会議が３回、両大学間のテレビ会議が３回開催された。これらの会議を通して第４回合同シンポジウムは、①平成24年９月19日～21日の３日間に開催すること、②メインテーマは第３回のHealthy Aging Societyを拡大・発展させたHealthy Aging and Sustainable Societyとすること、③下記の５つのセッションを設けること、④学生の交流を重視すること、⑤２日目にメインテーマに関連するフィールドトリップを実施すること、⑥地域の行政や企業との連携を重視すること、などが決められた。さらに、学生、主題、地域連携の３つのワーキンググループが組織委員会内に設置され、プログラム内容を具体化させている。

以上のような経過を踏まえ、合同シンポジウムのCall for Papersの案内、ならびにホームページの開設を平成24年２月に行った。

【香川大学組織委員会メンバー】

Organizing Committee Chair, Professor Dr. Hideyuki Sawada, Faculty of Engineering
Professor Dr. Toyohiko Iida, International Office
Professor Dr. Lrong Lim, International Office
Assistant Professor Dr. Naomi Hosoda, International Office
Professor Dr. Masaaki Tokuda, Faculty of Medicine
Professor Dr. Yumiko Takagi, Faculty of Education
Professor Dr. Hirotoshi Tamura, Faculty of Agriculture
Associate Professor Dr. Jongouck Kim, Faculty of Law
Professor Dr. Ravindra R. Ranade, Faculty of Economics
Professor Dr. Nobuyuki Arai, Graduate School of Law
Professor Dr. Hisashi Kato, Faculty of Agriculture
Associate Professor Dr. Yoichiro Yagi, Graduate School of Management
Assistant Professor Toru Takamizu, International Office
Assistant Professor Mika Shioi, International Office
Assistant Professor Dr. Ai Shoraku, International Office

【チェンマイ大学プログラム委員会メンバー】

Assistant Professor Dr. Nat Vorayos, Vice President
Associate Professor Dr. Avorn Opatpatanakit, Assistant President
Professor Bannakit Lojanapiwat, M.D., Faculty of Medicine
Assistant Professor Dr. Thitinut Akkadechanunt, Faculty of Nursing
Associate Professor Dr. Jeerayut Chaijaruwanich, Faculty of Science
Associate Professor Dr. Sanchai Jaturasittha, Faculty of Agriculture
Dr. Yuthana Phimolsiripol, Faculty of Agro-Industry
Assistant Professor Dr. Pairut Kanjanakaroon, Faculty of Economics
Assistant Professor Benjang Jaisai Der Arslanian, Faculty of Humanities
Assistant Professor Dr. Supaporn Nakbunlung, Faculty of Social Sciences
Dr. Narumon Kimpakorn, Faculty of Business Administration
Assistant Professor Dr. Yuwayong Janviji, Faculty of Nursing
Assistant Professor Dr. Komsan Suriya, Faculty of Economics
Associate Professor Dr. Nipon Theera-Umpon, Faculty of Engineering
Assistant Professor Dr. Valaiporn Kanjanakaroon, Faculty of Humanities
Dr. Chayan Vaddhanaphuti, Faculty of Social Sciences
Professor Dr. Saisamorn Lumyong, Faculty of Science
Associate Professor Dr. Suwasa Kantawanichkul, Faculty of Engineering
Assistant Professor Dr. Sansanee Auephanwiriyakul, Research Administration Center
Mr. Thammanoon Noumanong, Research Administration Center
Ms. Priraya Rithaporn, Research Administration Center

【テーマ別セッション】

Session 1 ：Social Sciences and Humanities : Social Environment Studies for Sustainability
Session 2 ：Economics and Business : Economic and Business Studies for Social Sustainability
Session 3 ：Medicine : Aging and Lifestyle Related Diseases
Session 4 ：Engineering : Engineering Aspects for Sustainable Development
Session 5 ：Agriculture : Agriculture and Biotechnology

平成23年度国際研究支援センター研究会シリーズ（第１～４回）の開催

インターナショナルオフィス　細　田　尚　美

国際研究支援センターでは平成22年度から、香川大学における国際的な研究活動推進のための研究会シリーズを年に数回開催している。研究会は、国際的な研究を実施している／実施を希望している教員らの報告を聞き、参加者の間で活発な議論を展開するとともに、それぞれの研究の発展へとつなげることを目的としている。いずれの研究会も、幸町、医学部、工学部、農学部の各キャンパスを遠隔会議システムでつないで実施し、部局間の研究交流の一端も担った。

○第１回東南アジア地域の糖尿病・肥満克服プロジェクト
―ブルネイ、タイとの連携強化を目指して―（平成23年６月27日）

東南アジア諸国でも深刻な問題となっている糖尿病や肥満の克服プログラムに対して香川大学がいかに積極的に関わっていけるかというテーマを取り上げた。医学部の徳田雅明教授が同学部が取り組んでいる糖尿病・肥満の克服プログラムの概要を説明し、続いて同学部の教員による以下の３報告があった。

・「チーム香川による医療 IT を用いた糖尿病連携クリティカルパス」（医学部村尾孝児教授）
・「糖尿病尿バンクの設立を目指して」（医学部西山成教授）
・「ブルネイ国におけるメタボ対策のあり方について」（医学部平尾智広教授）

○第２回「サボア大学と香川大学を核とした日仏大学の広域交流」（平成23年７月23日）

工学部の秦清治教授が、海外交流拠点校として選定されたサボア大学との国際交流を中心に、さらにそれを核とした日仏11大学の教育・研究の広域交流「国際メカトロニクス研究教育機構」（IOREM）へと発展した過程について紹介した。

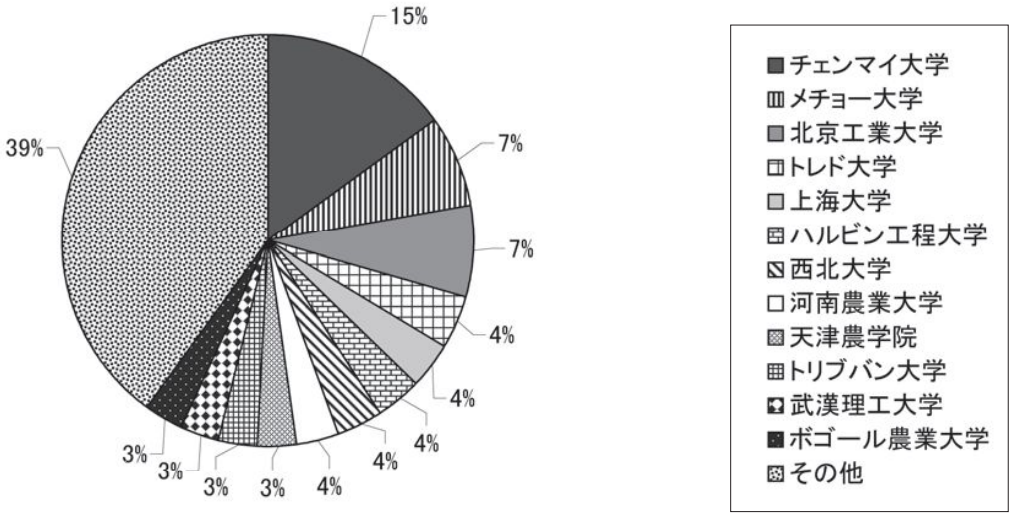
○第３回「『瀬戸内海を介した、世界の内海領域の文化・芸術・産業等の育成・創造と発信に関する国際共同研究』の計画概要と今後の進め方」（平成23年10月20日）

香川大学の国際的な学術・交流の重点分野・テーマのひとつ、「瀬戸内海を介した、世界の内海領域の文化・芸術・産業等の育成・創造と発信に関する国際共同研究」を取り上げ、今後の部局を越えた参画の機会とした。工学部の土井健司教授による計画概要の紹介のあと、池田直太氏（国土交通省四国地方整備局港湾空港部長）による報告「瀬戸内海の産業と海運について」、齊藤正氏（㈱齊藤正穀工房）による報告「瀬戸内海で育まれた造船技術・建築技術・文化―塩飽大工衆の歴史から」があった。

○第４回「日本学術振興会国際交流事業の概要」（平成24年１月２日）

各部局あるいは部局間連携をもとにした国際学術交流活動の促進を図ることをねらいに、加藤久氏（日本学術振興会国際事業部長）による同会の国際事業の概要や平成24年度の新規事業に関する説明や申請に役立つ助言を聞く講演会を開いた。

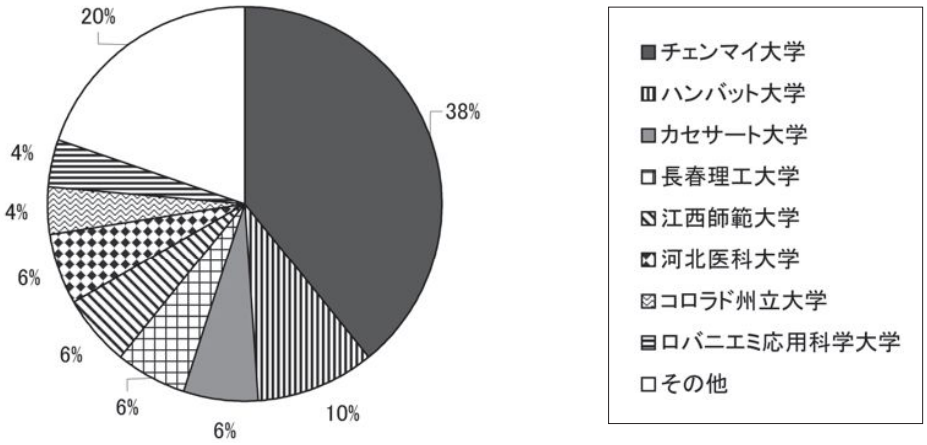
学術交流協定締結校との交流状況



学術交流協定締結校への派遣事業	件数
チェンマイ大学	25
メチョー大学	12
北京工業大学	12
トレド大学	7
上海大学	6
ハルビン工程大学	6
西北大学	6
河南農業大学	6
天津農学院	5
トリブバン大学	5
武漢理工大学	5
ボゴール農業大学	5
カセサート大学	4
ハンバット大学	4
ブルネイ・ダルサラーム大学	4
誠信女子大学	4
クライストチャーチ・ポリテクニック工科大学	4
ボン=ライン=ズィーク大学	4
ブルネイ・ダルサラーム国保健省	4
ミュンヘン工科大学	3

学術交流協定締結校への派遣事業	件数
バッタンバン大学	3
カルガリー大学	3
北京師範大学	3
サボア大学	2
ライン・マイン大学（旧ヴィースバーデン大学）	2
コロラド州立大学	2
チュラロンコン大学	2
コンピエーネ技術大学	2
リモージュ大学	2
ブリティッシュ・コロンビア大学	2
漢陽大学	2
西オーストラリア大学	2
浙江工商大学	2
真理大学	1
電子科技大学	1
フランシュ・コンテ大学	1
シェレバングラ農科大学	1
北京外国語大学	1
長春理工大学	1
ハルムスタッド大学	1

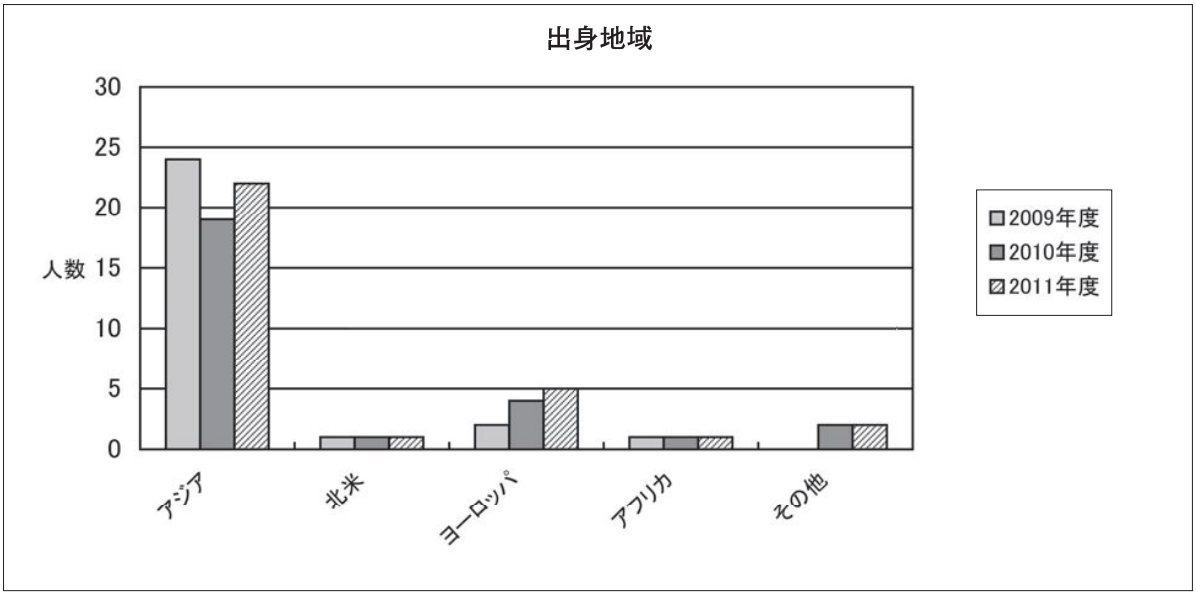
学術交流協定締結校からの受け入れ状況



学術交流協定締結校からの受け入れ事業	件数
チェンマイ大学	20
ハンバット大学	5
カセサート大学	3
長春理工大学	3
江西師範大学	3
河北医科大学	3
コロラド州立大学	2
ロバニエミ応用科学大学	2
サボア大学	1
ミュンヘン工科大学	1
ハルビン工程大学	1
電子科技大学	1
チュラロンコン大学	1
トリブバン大学	1
武漢理工大学	1
清州大学	1
クライストチャーチ・ポリテクニック工科大学	1
カルガリー大学	1

外国人研究者等の受け入れ状況（１／３）

【外国人研究者の出身地について】



【地域別】

	アジア	北米	ヨーロッパ	アフリカ	その他	合計
2009年度	24	1	2	1	0	28
2010年度	19	1	4	1	2	27
2011年度	22	1	5	1	2	31

【国　別】

アジア

国名	2009年度	2010年度	2011年度
大韓民国	2	1	0
タイ王国	10	4	7
中華人民共和国	9	7	8
ﾊﾞﾝｸﾞﾗﾃﾞｨｯｼｭ人民共和国	2	2	2
マレーシア	0	1	1
ネパール	0	1	0
パキスタン	0	0	1
インドネシア共和国	1	2	2
インド	0	0	1
フィリピン共和国	0	1	0

北米

国名	2009年度	2010年度	2011年度
アメリカ合衆国	1	1	1

中東

国名	2009年度	2010年度	2011年度
オマーン	0	0	1

ヨーロッパ

国名	2009年度	2010年度	2011年度
ベルギー王国	1	2	2
ポルトガル共和国	1	1	1
スウェーデン	0	1	0
スペイン	0	0	1
フィンランド	0	0	1

アフリカ

国名	2009年度	2010年度	2011年度
エジプトアラブ共和国	1	0	0
リベリア	0	0	1

南米

国名	2009年度	2010年度	2011年度
アルゼンチン	0	1	0
ブラジル	1	0	1

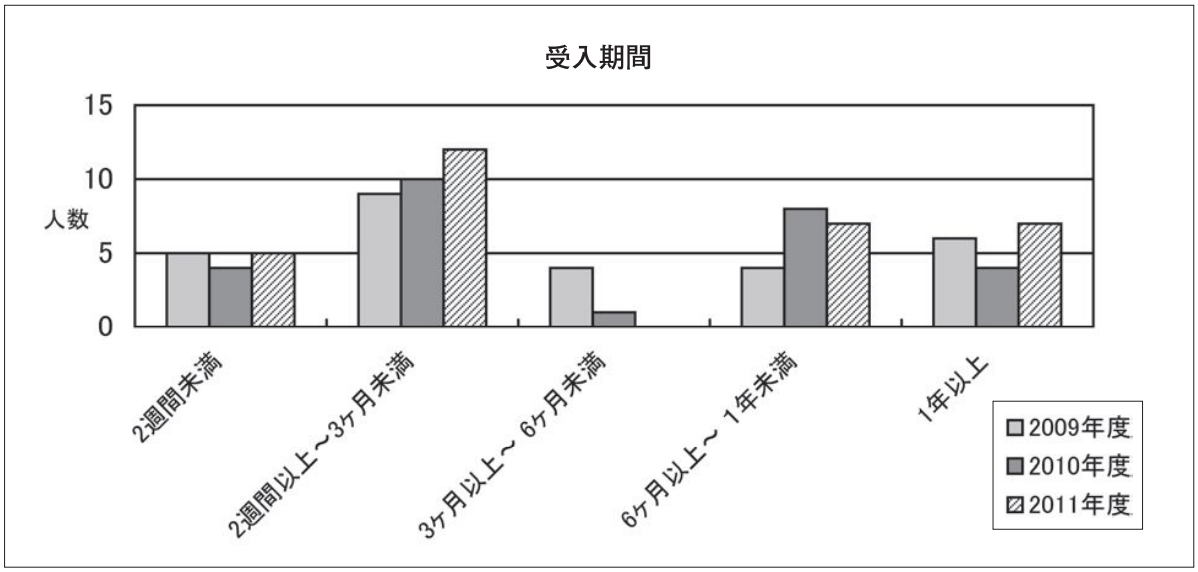
オセアニア

国名	2009年度	2010年度	2011年度
オーストラリア	0	1	0

外国人研究者等の受け入れ状況（２／３）

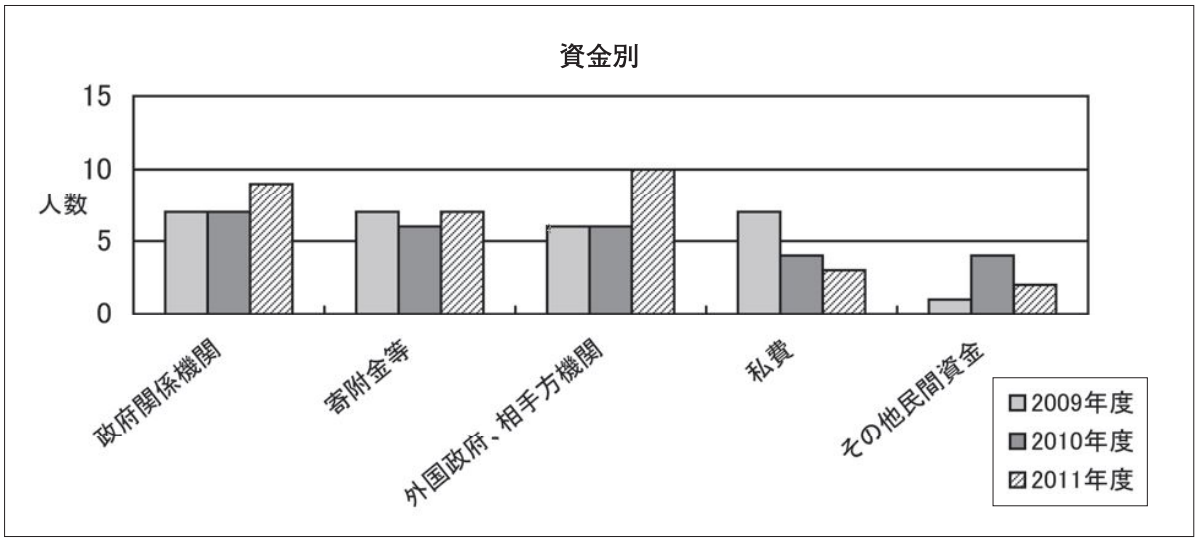
【受入期間】

年度	2週間未満	2週間以上～3ヶ月未満	3ヶ月以上～6ヶ月未満	6ヶ月以上～1年未満	1年以上	合計
2009年度	5	9	4	4	6	28
2010年度	4	10	1	8	4	27
2011年度	5	12	0	7	7	31



【資金別】

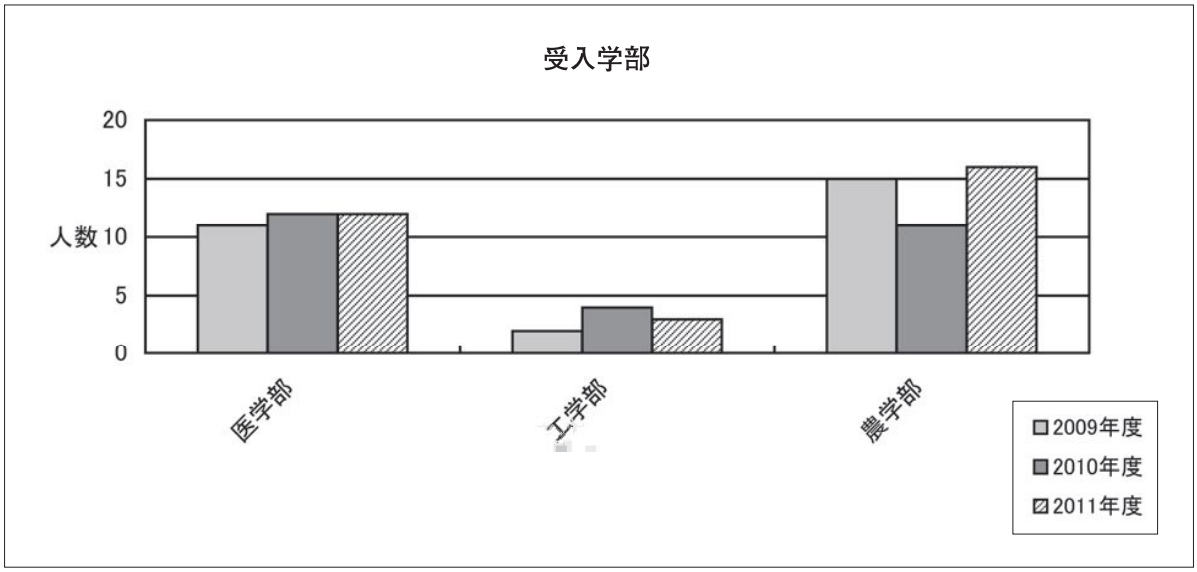
年度	政府関係機関	寄附金等	外国政府、相手方機関	私費	その他民間資金	合計
2009年度	7	7	6	7	1	28
2010年度	7	6	6	4	4	27
2011年度	9	7	10	3	2	31



外国人研究者等の受け入れ状況（３／３）

【受け入れ学部別】

年度	医学部	工学部	農学部	合計
2009年度	11	2	15	28
2010年度	12	4	11	27
2011年度	12	3	16	31



平成 23 年度国際学会・シンポジウム開催状況

学会・シンポ等名称	開催期間	開催場所	招へい外国人研究者	主催部局等名	担当教員	参加者人数
人間と機械のインタラクションに関する国際会議	5／19 〜 5／21	慶応大学 日吉 キャンパス	Prof. Hongbin Zha (Peking University, China) Prof. Bogdan Wilamowski (Auburn University, USA)	工学部	澤田秀之	105名
2011年 IEEE/ICME 複合医工学国際会議	5／22 〜 5／25	中国、 ハルビン市	1. Prof. Frank Padberg Ludwig-Maximilian University of Munich, Germany 2. Prof. Max Q.-H. Meng The Chinese University of Hong Kong, China	工学部	郭　書祥 (実行委員長) 峠　哲男 (プログラム委員長) 医学部	175人
2011年 IEEE メカトロニクスとオートメーションに関する国際会議	8／7 〜 8／10	中国北京市	1. Dr.Eng.Hiroyuki Yoshikawa, Director-General, Center for Research and Development Strategy (CDRS), JST, Japan 2. Prof. Tzyh Jong Tarn, Center for Robotics and Automation Washington University, St. Louis, USA 3. Dr.George Kotrotsios Vice President Business Developpement CSEM SA, Swiss Center for Electronics and Microtechnology	工学部	郭　書祥 (組織委員長) 秦　清治 (実行委員長)	480人 (28の国と地域)
第 5 回国際希少糖 学会シンポジウム	11／9 〜 11／12	香川 国際会議場	M.Leisola F.Giffhorn E.Vandamme C.Bucke D.K.Oh A.Liptak L.Saisamorn L.Weber	農学部 医学部	早川　茂 徳田雅明	150人
国際ワークショップ： 国際遠隔医療の新展開へ向けた産学官民の連携	11／18	香川大学 研究交流棟 5 階	Dr. Song Yu	医学部	徳田雅明	45人
第 7 回 IEEE 無線、移動、ユビキタス技術と教育に関する国際会議 及び第 4 回 IEEE デジタルゲームと知的玩具による教育に関する国際会議	3／27 〜 3／30	香川 国際会議場 および サンポート ホール高松 会議室	Prof. David Cavallo (University of Maryland iSchool and College of Education, USA) Prof. Matthew Kam (Carnegie Mellon University, USA)	工学部	垂水浩幸 林　敏浩	150 〜 170人

国際ワークショップ「国際遠隔医療の新展開へ向けた産学官民の連携」の開催

インターナショナルオフィス　細　田　尚　美

平成23年11月18日、インターナショナルオフィス国際研究支援センターは、国際ワークショップ「国際遠隔医療の新展開へ向けた産学官民の連携～アジアの国々と共に何をすればよいか～」を幸町キャンパス研究交流棟研究者交流スペースで開催した。ワークショップには、海外からの参加者15名をはじめ、本学教職員、学生と国内外から53名の参加があった。同ワークショップでは、板野理事の挨拶の後、医学部徳田教授の趣旨説明に引き続き、第１部「日本の遠隔医療の現状と国際応用」、第２部「国際遠隔医療の今後の課題と可能性」について学内外の講演者による発表が行われた。また、総合討論では、発表内容に関する質問のみならず、海外からの参加者による各国の遠隔医療の現状と課題について様々な意見が交わされた。

【報告者】

長谷川高志（日本遠隔医療学会）
「日本の遠隔医療、推進政策と研究動向および国際的取組み」
原　量宏（徳島文理大学理工学部、香川大学瀬戸内圏研究センター、日本遠隔医療学会）
「香川県における遠隔医療と電子カルテネットワークの開発の経緯と今後の国際的な展開」
尾形優子（株式会社ミトラ）
「周産期電子カルテネットワークプロジェクト、タイへの展開」
飯原なおみ（徳島文理大学香川薬学部）
「電子処方と副作用データベース」
Song Yu（首都医科大学附属北京産婦人科病院）
「Medical Situation in Beijing」
樽松八平（情報通信研究開発機構、BHN テレコム支援協議会）
「NICT における医療 ICT の取り組み、タイでの遠隔医療について」
徳田雅明（香川大学医学部）
「ブルネイ・ダルサラーム国における ICT による国際遠隔医療の展開～近いけれど医療に遠い現実～」
安里和晃（京都大学大学院文学研究科）
「老いるアジアと介護人材の国際移動」
細田尚美（香川大学インターナショナルオフィス）
「フィリピンにおける医療の現状」

【総合討論ディスカッサント】

長尾敦史（香川大学地域マネジメント研究科）
澤田秀之（香川大学工学部）

日本語教育カリキュラム等の報告

インターナショナルオフィス　高　水　　徹

１．概要

インターナショナルオフィス留学生センターが平成23年度に提供した日本語教育関連科目等は、以下の通りである。

① 日本語研修コース（初級）
② 日本語講座
③ 日本語補講
④ 医学部における日本語サロン
⑤ 日本語語学研修プログラム
⑥ 日本の食の安全留学生特別コースの日本語関連科目

平成22年度からの主な変更は、以下の点である。農学研究科におけるアジア人財資金構想（高度専門）の終了により、同コースの日本語関連科目は、留学生センターが実施面において引き続き担当することとなった。また、アジア人財資金構想（高度実践）のビジネス日本語は、同じく同事業の終了により、今年度は新たに大学教育開発センター提供の日本事情の１つとして、新たな形態で開講した。

① 日本語研修コース（初級）

国費留学生の予備教育として開講されるコースで、集中的に日本語を習得する。毎日開講される「日本語」の他、週１コマの「日本事情」を含む。平成23年度前期は、所属学生がいなかったため、本コースは開講されていない。後期は２名の国費留学生が留学生センターに所属し、本コースを受講した。学生のレベルに合わせ、初級の授業が行われた。

使用教材は『みんなの日本語』で、発音、ひらがなから始め、36課まで終了した。これは例年と比較してもまずまずのペースである。しかし、今回の特徴としては、進度よりも定着度の高さである。特に２名のうち１名の学生は非常に意欲的で、学習内容を把握し正確に記憶する努力を惜しまなかった。担当教員は日本語が専任教員２名、非常勤講師１名、日本事情が専任教員１名である。

なお、23年度までの留学生センター所属の国費留学生に関するデータは、末尾に掲載している。

② 日本語講座
③ 日本語補講

これらの授業は、学生が自分の都合のよい時間に、内容およびレベルを選択して受講することができる。②と③は、以前は位置づけに関しても区別されていたが、近年は予算的な面以外は同様になっており、どちらも本学に所属する学生が日本語力を向上させるためのものである。

④　医学部における日本語サロン

医学部の留学生のため、地元香川で日本語学習支援・生活支援を行っているボランティア団体である「わ」の会にお願いして、サロンを開催していただいている。以前は日本語レベルの高い学生も対象としていたが、現在では、対象を入門または初級に絞って行っている。

⑤　日本語語学研修プログラム

本プログラムに関しては末尾の一覧に掲載されていない。このプログラムは海外の協定大学等に在籍している学生を対象に、２週間の期間で年２回を原則として行われるものであるため、末尾の一覧のような定期で開講される科目とは異なる。

⑥　日本の食の安全留学生特別コースの日本語関連科目

上記の通り、これらの科目はアジア人財（高度専門）の科目を引き継いでおり、含まれるのは「アジア人財日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」「ビジネス日本語Ⅰ、Ⅱ」「ビジネス教育Ⅰ」である。

以上に加え、留学生センター以外から提供される以下の授業科目も、一覧に掲載されている。

⑦　全学共通科目の日本語・日本事情（大学教育開発センター提供、表中※で表記、単位あり）

⑧　農学研究科 AAP コースの日本語・日本事情

⑦はその編成等を留学生センター教員が担当している。⑧は農学研究科における英語によるコースの中で、必修化されている日本語および日本事情に関する科目で、その編成、実施を留学生センターが担当している。

これらに関しては、インターナショナルオフィス留学生センターが直接提供しているわけではないが、カリキュラム、非常勤講師の調整、運営等を留学生センターまたはその教員が主導している。

留学生へのこれらの授業に関する周知は、この一覧に基づき、新入留学生対象のガイダンスや掲示、ネット上の掲載を通して行っている。

23年度前期授業一覧

曜日		幸町キャンパス Saiwai-cho Campus		農学部キャンパス Faculty of Agriculture		医学部キャンパス Faculty of Medicine		工学部キャンパス Faculty of Engineering	
月 Mon	1								
	2								
	3	※日本語Ⅰa(中級) Japanese Ⅰa (Intermediate)	山下(直) Yamashita, N.					初中級1 Upper Elementary 1	児島 Kojima
		※日本語Ⅲa(中上級) Japanese Ⅲa (Upper Intermediate)	轟木 Todoroki						
	4							初中級2 Upper Elementary 2	児島 Kojima
	5								
火 Tue	1								
	2	※日本語Ⅰb(中級) Japanese Ⅰb (Intermediate)	山下(明) Yamashita, T.	サバイバル日本語 (初級) Survival Japanese (Elementary)	早川 Hayakawa				
	3	※日本事情Ⅰb Japanese Affairs Ⅰb	正楽 Shoraku	アジア人財日本語Ⅱ	青木 Aoki				
		初中級読解・作文 Upper Elementary Reading and Writing	和田 Wada						
	4	中上級総合 Upper Intermediate Japanese Lang. Skills	和田 Wada	アジア人財日本語Ⅱ	青木 Aoki				
	5								
水 Wed	1								
	2	中級聴解 Intermediate Listening	大野呂 Ohnoro	ビジネス日本語Ⅰ	青木 Aoki				
	3	中級総合 Intermediate Japanese Lang. Skills	大野呂 Ohnoro			日本語サロン(初級) Lang. Salon Class (Elementary) 14:00 – 15:30	「わ」の会		
	4								
	5								
木 Thu	1								
	2	※日本語Ⅴb(上級) Japanese Ⅴb (Advanced)	佐藤 Sato	科学技術日本語 Japanese for Science and Technology	早川 Hayakawa				
		初中級総合 Upper Elementary Japanese Lang. Skills	塩井 Shioi						
	3	※日本語Ⅲb(中上級) Japanese Ⅲb (Upper Intermediate)	佐藤 Sato						
		初中級総合 Upper Elementary Japanese Lang. Skills	塩井 Shioi						
	4								
	5								
金 Fri	1								
	2	※日本語Ⅴa(上級) Japanese Ⅴa (Advanced)	早川 Hayakawa						
		初中級総合 Upper Elementary Japanese Lang. Skills	高水 Takamizu						
	3	※日本事情Ⅰa Japanese Affairs Ⅰa	早川 Hayakawa						
		初中級総合 Upper Elementary Japanese Lang. Skills	高水 Takamizu						
	4								
	5								

23年度後期授業一覧

曜日		幸町キャンパス Saiwai-cho Campus		農学部キャンパス Faculty of Agriculture		医学部キャンパス Faculty of Medicine		工学部キャンパス Faculty of Engineering	
月 Mon	1								
	2	初級日本語 Elementary Japanese Lang. Skills	塩井 Shioi	日本事情・地域交流 Studies on Japanese Culture/Community Exchange	早川 Hayakawa				
	3	初級日本語 Elementary Japanese Lang. Skills	塩井 Shioi					初中級1 Upper Elementary 1	児島 Kojima
		※日本語Ⅳa（中上級） Japanese Ⅳa (Upper Intermediate)	轟木 Todoroki						
	4							初中級2 Upper Elementary 2	児島 Kojima
	5								
火 Tue	1								
	2	※日本語Ⅰc（中級） Japanese Ⅰc (Intermediate)	高水 Takamizu	ビジネス日本語Ⅱ Business Japanese Ⅱ (Upper Intermediate)	宝山 Hozan				
		※日本語Ⅳb（中上級） Japanese Ⅳb (Upper Intermediate)	山下（明） Yamashita, T.	ビジネス教育Ⅰ Japanese Business Ⅰ (Upper Intermediate)	宝山 Hozan				
	3	初級日本語 Elementary Japanese Lang. Skills	和田 Wada	アジア人財日本語Ⅰ	青木 Aoki				
	4	初級日本語 Elementary Japanese Lang. Skills	和田 Wada	アジア人財日本語Ⅰ	青木 Aoki				
	5								
水 Wed	1								
	2	初級日本語 Elementary Japanese Lang. Skills	高水 Takamizu	フレッシュマンセミナー （初級日本語） Freshman Seminar (Elementary Japanese)	早川 Hayakawa				
		※日本語Ⅱa（中級） Japanese Ⅱa (Intermediate)	佐藤 Sato	アジア人財日本語Ⅰ	青木 Aoki				
	3	初級日本語 Elementary Japanese Lang. Skills	高水 Takamizu	アジア人財日本語Ⅲ 14:00 – 15:30	青木 Aoki	日本語サロン（初級） Lang. Salon Class (Elementary) 14:00 – 15:30	「わ」の会		
	4	初級日本事情 Japanese Affairs (Elementary)	ロン Lrong						
	5								
木 Thu	1								
	2	初級日本語 Elementary Japanese Lang. Skills	高水 Takamizu						
		※日本語Ⅱc（中級） Japanese Ⅱc (Intermediate)	塩井 Shioi						
		※日本語Ⅵb（上級） JapaneseⅥb (Advanced)	山下（直） Yamashita, N.						
	3	初級日本語 Elementary Japanese Lang. Skills	高水 Takamizu						
		初中級総合 Upper Elerementary Japanese Lang. Skills	大野呂 Ohnoro						
		※日本事情Ⅱa Japanese Affairs Ⅱa	ロン Lrong						
	4	初級日本語 Elementary Japanese Lang. Skills	高水 Takamizu						
		中級聴解 Intermediate Listening	大野呂 Ohnoro						
	5								
金 Fri	1								
	2	初級日本語 Elementary Japanese Lang. Skills	塩井 Shioi						
		※日本語Ⅵa（上級） JapaneseⅥa (Advanced)	早川 Hayakawa						
	3	初級日本語 Elementary Japanese Lang. Skills	塩井 Shioi						
		※日本語Ⅱb（中級） Japanese Ⅱb (Intermediate)	早川 Hayakawa						
	4	初級日本語 Elementary Japanese Lang. Skills	塩井 Shioi						
	5								

留学生センター所属国費留学生

期　　間	国　　籍	人数	予備教育後の所属
2003年10月～2004年３月	コスタリカ	1	教育学部（教員研修）
2004年４月～2004年９月	ドミニカ共和国	1	経済学研究科
	ベトナム	1	経済学研究科
2004年10月～2005年３月		0	
2005年４月～2005年９月	アルゼンチン	1	医学系研究科
	エジプト	1	医学系研究科
	パプアニューギニア	1	医学系研究科
2005年10月～2006年３月	フィリピン	1	教育学部（教員研修）
2006年４月～2006年９月		0	
2006年10月～2007年３月		0	
2007年４月～2007年９月		0	
2007年10月～2008年３月		0	
2008年４月～2008年９月		0	
2008年10月～2009年３月	フィリピン	1	教育学部（教員研修）
2009年４月～2009年９月	ジンバブエ	1	農学研究科
2009年10月～2010年３月	ペルー	1	教育学部（教員研修）
2010年４月～2010年９月		0	
2010年10月～2011年３月	カンボジア	1	教育学部（教員研修）
	ホンジュラス	1	教育学部（教員研修）
2011年４月～2011年９月		0	
2011年10月～2012年３月	インドネシア	1	教育学部（教員研修）
	マレーシア	1	教育学部（教員研修）

相談（交流推進）事業の報告

インターナショナルオフィス　ロン　リム

2011年１月から12月までの相談活動について報告する。

相談の仕組み

本学による相談の仕組みは、昨年と同様、次の通りである。留学生をめぐる相談は、留学生センターで対応する。当センターには、４人の専任教員がいるが、相談を中心的に担当するのは筆者である。一般学生の相談は、各部局に相談窓口が設置されている。他に、保健管理センター、セクシャル・ハラスメントの相談室などもある。これらの窓口では、誰でも、相談しに来ることが可能な体制を取っている。

留学生センターで受け付けている相談は、まず、相談担当教員が単独で対応できるかどうか判断する。対応範囲を超えた場合は、他の３人の教員や事務組織である国際グループの職員に意見や助言を求める。それでも範囲を超えた場合は、適切な部署の相談窓口との連携を取って対応を探る。

無論、全ての相談が完璧に解決出来るとは限らない。多くの相談対応については、聞くだけで、相談者の気持ちが柔らかくなるケースが多いだろう。そして、相談業務を円滑に運営するために、積極的に情報や助言などを求めることが必要になり、担当者が動き出すケースもしばしばある。

相談のルート

相談依頼者は、オフィスアワー内に、研究室に直接来ることもあるが、不在の時もあるので、先にメールや電話を通してアポを取ってから来るのが、一般的なルートである。また、メールでのやり取りのひとつの利点は、記録を取ることができることである。今回、299件の相談を受けた（表１参照）。そのうち、124件はメールでのやりとりであった。その他、電話あるいはファックスで連絡をする場合もある。来室して相談するのは91件で、研究室以外で学内での相談対応は40件だった。学外での相談（12件）は、学外の専門家や国際交流団体のメンバーなどからアドバイスや助言をもらうケースが一般的である。

表１　相談方法

月	メール	電　話	ファックス	来室での相談	学内相談での相談	学外相談での相談	合　計
1	5	4	2	4	2	1	18
2	4	6	1	6	2	5	24
3	3	1	0	6	5	1	16
4	5	4	0	9	9	0	27
5	8	2	0	11	2	2	25
6	10	3	0	5	3	2	23
7	5	3	0	8	3	0	19
8	14	3	2	8	3	0	30
9	22	0	0	3	7	0	32
10	19	0	0	10	1	0	30
11	10	0	0	13	2	1	26
12	19	1	0	8	1	0	29
合　計	124	27	5	91	40	12	299

相談依頼者

相談依頼者の大半は、留学生であった(98件、表２参照)。業務上、これは当然のことでもあり、本学の留学生に関する事項については、やはり、本センターの対応が求められている。次に多かったのは本学の教職員だった（75件)。留学生たちをめぐる問題など、まず同僚たちと相談するのも有益な道である。それから、とりわけ国際交流の事業に関して、一般の方々から相談を受けたり、また、逆に、こちらから相談を依頼したりするケースが一般的である。これらの件数は54だった。

表２　相談依頼者

月	留学生	日本人学生	教職員	一　般	外部学生	外部教職員	合　計
1	6	0	3	6	0	3	18
2	5	1	4	8	1	5	24
3	5	0	8	3	0	0	16
4	10	5	10	2	0	0	27
5	13	0	6	5	0	1	25
6	5	2	6	9	0	1	23
7	5	5	4	4	0	1	19
8	9	3	11	3	2	2	30
9	9	7	8	3	0	5	32
10	12	4	7	4	0	3	30
11	7	8	2	5	3	1	26
12	12	6	6	2	3	0	29
合　計	98	41	75	54	9	22	299

本学の日本人学生からの相談は、多くのケースは、海外留学もしくは留学生との交流事業である（41件)。外部の教職員の方々との多くの相談（22件）は、海外留学あるいは研修、または、学術協定に関する事項がほとんどである。最後に、外部の学生とは、大半が海外の学生からとなっている。彼らからの相談(９件)は、大まかに言うと、日本あるいは本学への入学に関することである。

表３　相談内容

月	情報交換関係	学業関係	入管関係	経済問題	医療関係	生活一般	就職・バイト	トラブル関係	国際交流活動	学術交流関係	合　計
1	5	5	0	0	0	0	0	2	5	1	18
2	4	6	1	0	0	0	0	5	3	5	24
3	1	1	4	0	0	3	0	4	1	2	16
4	1	3	0	2	1	4	0	9	4	3	27
5	1	8	0	3	1	0	0	4	7	1	25
6	5	7	1	0	1	0	0	2	7	0	23
7	1	11	0	0	0	0	0	1	5	1	19
8	1	18	0	0	0	1	2	2	5	1	30
9	6	8	0	0	0	6	0	0	8	4	32
10	4	10	0	0	0	3	0	2	9	2	30
11	2	12	0	0	0	2	0	2	8	0	26
12	1	10	0	0	0	5	0	9	3	1	29
合　計	32	99	6	5	3	24	2	42	65	21	299

相談内容を見ると、最も多いのは、やはり学業関係の相談（99件）だった。留学生の場合は、本学への入学手続きの相談が一般的だった。日本人学生の場合、海外語学研修をはじめ、海外留学に関する問い合わせが多かった。２番目に多い相談項目は、国際交流活動（65件）である。地域住民や地元の国際交流団体からの依頼が年中、来ている。トラブル関係のやり取りは42件だった。ホームステイに関する問題から、大家さんとの不和、あるジャーナルからのクレーム、金銭紛失、学生

間の喧嘩、精神的な不安を抱く留学生への対応まで、多様なトラブルが発生した。次に、情報交換関係という相談項目は32件であった。これは、純粋な相談と言うよりも、挨拶を含めた情報の共有である。日ごろの相談事業には、欠かせない部分である。生活一般に関する相談は24件だった。バディーズやチューター、それから宿舎や医療保険の加入についての内容がほとんどだった。学術交流関係の相談は21件あった。海外の姉妹大学とのやり取りが主な内容であった。残りの16件は、入国管理、経済、医療、就職とアルバイトに関する相談だった。

前年との比較

2008年以来、相談件数は大体300件足らずである。2011年の相談内容の特徴は、前年と比べると、学業関係とトラブル関係の増加である。学業関係の増加は、海外から入学情報や調整を尋ねてくるケースが大きな一因である。おそらく東北大震災の影響もあるかと思われる。

表４　相談内容別の実績（過去４年間　2008年～2011年）

相談内容	2008	2009	2010	2011
情報交換関係（情報収集・提供、挨拶）	58	26	52	32
学業関係（入学、進学、研究、学習、見学）	22	18	41	99
入管関係（入管、ビザ、在留）	2	19	4	6
経済問題（奨学金、授業料）	4	6	23	5
医療関係※	－	－	－	3
生活一般（住居、日常生活、チューター）	29	53	31	24
就職・アルバイト関係	12	7	7	2
トラブル関係（人間関係、ミスコミュニケーション、家庭内トラブル、交通事故、事件）	5	16	11	42
国際交流・サークル活動	114	70	81	65
学術交流関係（海外大学協定など）	29	15	32	21
合　　計	275	230	282	299

※「医療関係」の項目は、2011年より設けた。

トラブル関係の相談件数の増加は、今まで起こったことの無い事項が発生したためであると考えられる。家賃をめぐるトラブルやあるジャーナルからのクレームまで、そして電気の無断使用事件と学生間の喧嘩は初めて対応した事項となった。

海外語学研修プログラムの報告

インターナショナルオフィス　正　楽　　藍

１．短期語学研修の概要

インターナショナルオフィスでは毎年、夏休みと春休みの期間中の海外（カナダ、オーストラリア、韓国）の大学での短期語学研修を学生へ紹介し、それらの大学へ学生を派遣している。本研修は平成16年度に開始され、平成23年度で８年目をむかえる。本研修の目指すところは、主に日本人学生を対象として、彼らの外国語能力を向上させ、海外経験を通して国際感覚を涵養させることである。また、夏休みや春休みの短期間の研修を経験した後、本格的な海外留学、特に、本学の学術交流協定校への派遣交換留学を目指す学生の増加も期待される。

本研修の研修先は、協定校に限らず、本学教員が実際に訪れたり、先方の教職員と連絡を取り合ったりして、研修先として相応しい(研修内容や研修期間、治安など)と判断した海外の大学である。研修は本学の学生のみを対象としたものではなく、その大学が広く、さまざまな国や地域から受講者を受け入れているものを選んでいる。これは、外国人と外国語で意思疎通を図るという、日本ではほとんど経験することのない経験を積ませるためである。本学の教職員による研修への引率は現在のところ実施していない。現地の空港へ到着してからの学生への引率は先方の教職員、ときには研修先の大学の学生にお願いしている。

研修内容は、たとえば英語圏の研修先の場合、一般英語（General　English）コースに沿ったもので、読む・書く・聴く・話す能力の総合的な向上を目指している。また、大学外でも外国語や外国人と触れ合う機会をもたせるため、現地での生活はホームステイである。学生は、大学での研修では経験することのできない、外国人家庭での生活を経験することとなる。

帰国後、学生は本学へ体験談を提出し、一部の学生は帰国報告会での帰国報告を行う。

２．平成23年度の研修

平成23年度の研修先大学と期間は以下の通りである。

【カナダ】	カルガリー大学（平成23年８月29日～９月９日）
【オーストラリア】	西オーストラリア大学（平成23年８月22日～９月23日）
【韓国】	大邱大学（平成23年８月８日～８月26日）
〃	建国大学（平成23年８月15日～９月30日）

毎学期、海外留学ガイダンスを開催し、本学の海外留学プログラムの紹介とあわせて、短期語学研修の研修先大学や研修コースの紹介、ホームステイなどについて説明している。平成23年度は、前期のガイダンスは５月25日㈬に、後期のガイダンスは10月30日（日・大学祭）に開催した。ガイダンスとあわせて、研修生の帰国報告会も行い、研修プログラムの内容や現地での生活、ホームステイの様子などを紹介してもらっている。また、本研修に参加する学生向けの渡航前オリエンテーション（危機管理ガイダンス）を開催し、研修先でのちょっとした怪我や病気の他、有事の際の対応について説明している。短期語学研修の参加学生は、このオリエンテーションへの出席が義務付

けられている。

上記ガイダンスの他、インターナショナルオフィスでは、海外留学、特に、学術交流協定校への留学を目指す学生を対象とした海外留学相談窓口を設けたり、国際交流スペースでの情報提供を行ったりしている。

3．研修参加者の実績

本研修が開始された平成16年度から平成23年度までの研修参加者と研修先は表１の通りである。

表１　海外語学研修への参加者実績（平成16年度～平成23年度）

香川大学インターナショナルオフィス　短期語学研修実績（平成16～23年度３月現在）

（　）内数値は６カ月以上、＊は大学院修士課程１年生

総計147名	教育学部				経済学部				法学部				農学部				工学部				医学部					
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	5	6
	62名				33名				13名				23名				14名				2名					
平成16年度（３名）																										
エディスコーワン大学		1	2																							
平成17年度（25名）																										
南ソウル大学			1			1												1								
ビクトリア大学														1												
ブリティッシュコロンビア大学		1																1								
サイモンフレイザー大学									1				2	1	1				1							
エディスコーワン大学	1	4	2		1	1			1									2	1							
平成18年度（17名）																										
大邱大学			1																							
南ソウル大学		1	1			1								1												
ビクトリア大学			1																							
ブリティッシュコロンビア大学																			4							
サイモンフレイザー大学												1														
エディスコーワン大学		2			1	1												1								
サンフランシスコ大学(バークレー校)										1																
平成19年度（38名）																										
ビクトリア大学				4(4)																						
サイモンフレイザー大学	1	3												1												
カルガリー大学						2	1						2	1	1											
北ブリティッシュコロンビア大学				1(1)																						
アルバータ大学				4(4)																						
エディスコーワン大学	2	1		1＊		6				1			1	2												
西オーストラリア大学							1(1)																			
スウィンバーン工科大学			1(1)																							
カリフォルニア大学(リバーサイド校)								1																		
平成20年度（17名）																										
ビクトリア大学		1	2(1)		1	1(1)			1	2					1											
ブリティッシュコロンビア大学			1(1)																							
サイモンフレイザー大学																						1				
アルバータ大学															1(1)											
エディスコーワン大学	2		1		1																					
ジェームスクック大学						1																				
平成21年度（８名）（平成21年度夏休みの研修は、新型インフルエンザのため中止）																										
ビクトリア大学	2		1(1)																							
ブリティッシュコロンビア大学			1(1)								1(1)		1													
ジェームスクック大学						1								1												
平成22年度（23名）																										
大邱大学				1																						
ビクトリア大学		2	3(1)		1		1						1					1								
ブリティッシュコロンビア大学	1	1	1(1)			2			1													1(1)				
カルガリー大学						1							2													
クイーンズランド大学		1																								
ジェームスクック大学				1																						
クイーンズランド工科大学													1													
平成23年度（16名）																										
大邱大学		1				1																				
建国大学	1								1																	
西オーストラリア大学		1			2	1	1	1		2				1				2								
カルガリー大学	1																									

第15回・第16回日本語語学研修プログラム報告

インターナショナルオフィス　塩　井　実　香

１.「日本語語学研修プログラム」の目的

本プログラムは、「外国人学生に日本語教育を提供し、併せて日本、特に香川の歴史や文化を紹介するとともに、日本人及び地域社会との交流を図ること」を目的として2005年より行っているものである。併せて、本研修への参加が、その後の本学への正規留学につながるようにという、言わば呼び水効果の意図もある。

2011年度には、例年どおり夏季と冬季の２回実施した。以下、それぞれのプログラムについて記す。

２．第15回日本語語学研修プログラム

２－１．研修生

昨年度までは定員を15名としていたが、東日本大震災の影響で本学の宿泊施設「幸町会館」も震災関係者用に２部屋開けておかなければならなくなったため、今回から定員を10名に減らした。これには、15名分のホストファミリーを探すのが大変だということも関わっている。

参加者を募集した結果、台湾より８名、韓国より４名、計12名の応募があり、定員を２名上回るものの、全員受け入れることとした。内訳は、真理大学１名（台湾)、輔仁大学７名（台湾)、韓国海洋大学４名（韓国）である。本プログラムは、複数国／地域・大学から参加を募り、本学での研修を通じてハブ的な交流を行うことも目指しているため、本来は基本的に１大学から２名以内の参加を求めているが、今回は、当初想定していたより応募が少なかったため、参加希望者の多い輔仁大学に再度呼びかけをし、同大より計７名の参加となった。なお、台湾からの学生８名は皆日本語専攻で、韓国からの４名は日本語以外の専攻（東アジア、船舶工学、国際貿易）であった。

２－２．研修期間

2010年６月27日㈪から７月８日㈮の２週間。

２－３．研修日程・研修内容

以下の日程で行った。

授業・体験学習・体験学習はいずれも、午前は10：00～11：50、午後は13：00～14：50である。（授業の場合は50分単位で10分休憩をはさみ、体験学習・学外実習もこの時間設定に準ずる。）

6／27(月)	午前：開講式、ガイダンス 午後：授業「総合」(担当：ロン) 18：00～：情報交換会	7／3(日)	終日：ホームステイ ※小豆島日帰り旅行（自由参加）
6／28(火)	午前：授業「会話」(担当：和田) 午後：企業見学「石丸製麺」(引率：市村国際グループ員)	7／4(月)	16：00まで：ホームステイ
6／29(水)	午前：授業「読解」(担当：高水) 午後：体験学習「茶道」 （講師：裏千家茶道部、担当：正楽）	7／5(火)	午前：授業「聴解」 （担当：和田） 午後：学外実習「四国村」 （担当：高水）
6／30(木)	午前：体験学習「華道」 （講師：明石、担当：ロン） 午後：授業「日本事情」 （担当：正楽）	7／6(水)	午前：授業「作文」(担当：塩井) 午後：授業「会話」(担当：正楽)
7／1(金)	午前：学外実習「栗林公園」 （担当：塩井） 午後：授業「日本事情」 （担当：ロン） 16：00～：ホストファミリーとの対面式、ホームステイ	7／7(木)	午前：授業「作文」(担当：高水) 午後：体験学習「書道」 （講師：書道部、担当：正楽）
7／2(土)	終日：ホームステイ	7／8(金)	午前：授業「総合」(担当：塩井) 16：30～：研修体験発表会 17：30～：修了式 18：00～19：30：意見交換・反省会

２－４．授業・体験学習・学外実習・企業見学

授業科目の設定は従来どおりである。これまで同様、初日の「総合」の時間にはプログラム全体についての注意事項、ホームステイ前の「日本事情」クラスでは、円滑なホームステイ実施のため、日本の家庭生活についての説明や、ステイに係る注意点について、周知・確認を行った。

体験学習・学外実習については、第12回以降同様、引率担当教員をあらかじめ決めておく体制をとった。基本的には専任教員が引率を担当するが、専任教員が全員都合がつかない時に限り、国際グループの職員に引率を依頼した。

体験学習では、昨年夏季の第12回で初めて「盆踊り」を取り入れてみたが、プログラム内容の再考を図り、今回は盆踊りは入れないこととした。第12回では、盆踊り時に浴衣を着る体験もしたが、これは研修生に好評だったこともあり、今回は華道体験の際に浴衣体験も併せて行った。（華道と盆踊りの講師は、いずれも学外の同一の方に講師を依頼しており、浴衣もその方に着付けしていただいている。）浴衣を着るのは夏ならではの体験であり、浴衣を着て花を生けることで、華道体験がより日本的なものになったように感じられた。

茶道は、本学にある三つの茶道部、すなわち表千家・裏千家・石州流のいずれかに協力をお願いする形をとっており、今回は裏千家に協力してもらった。

書道も、従来どおり本学書道部に講師として指導してもらった。茶道も華道も、日本の伝統文化を学ぶだけでなく、同世代の学生同士が交流することにも意義があると思われる。両部とも９名の部員が参加してくれ、楽しく日本文化が学びながら交流できたようである。

学外実習では、昨年同様「栗林公園」と「四国村」の２か所に行った。

また、第11回以降行っていなかった「石丸製麺」の見学も、今回は実施した。石丸製麺は、展示や説明が分かりやすく、工場見学もうどんの試食もできるため、毎回研修生には好評である。

２－５．その他

昨年第12回より、初日の情報交換会を従来より30分遅らせ、18：00開始とした。また、ホームステイ前のホストファミリー対面式も、従来より１時間遅らせ、16：00からとした。これらの時間帯のほうが関係者にとって都合がよいようなので、今後もこの時間設定で進めていきたいと思う。

今回からの変更点または新たな点として、前述のとおり定員を10名に減らしたこと、期間中研修生との交流やサポートを行う「Buddies」制度を設けたこと、プログラムの準備・実施において、留学生センター教員が従来より密にこれらの学生団体等と連絡を取りあったことが挙げられる。

Buddies は、これまで本学の国際交流サークル「ICES（アイセス：Inter Cultural Exchange Society)」に任せていた研修生との交流・サポートを、本プログラムのサポート要員として希望する本学学生に実施させるようにしたものである。これは、希望者に自覚を持って主体的に研修生と関わってもらうことを目指し、また、このような制度を設けることで、ICES 部員以外の国際交流に興味を持つ学生にも参加してもらうことも意図している。初めての試みであり、いわば試行的ではあったが、今後の展開次第でうまく機能していきそうな手ごたえがあったため、次回以降も Buddies 制度は継続させていくこととした。

上記 Buddies やその他の学生団体等との連携体制に関しては、まだ改善の余地もあったと考えられるが、本センターの事務担当である国際グループとの協力もこれまで同様に維持しながら、今後ともスムーズな運営を目指していきたい。

２－６．第15回プログラムを振り返って

何度プログラム実施を重ねても、毎回反省事項や新たな問題点は出てくるものである。

今回の反省点としては、開講式前日のチェックイン時刻を指定すること（対応する教員側の負担軽減、注意事項周知の効率化、Buddies との対面・交流のため)、宿泊の際の部屋（個室か相部屋か）は本学側で決定することを要周知（部屋割への不満が出て、対応に苦慮したため)、日本語の辞書の持参を求めること（学習の効率化のため）等がある。これまでチェックイン時には本学教員や Buddies 学生が高松駅まで迎えに行き、大学に連れてくる体制にしていたが、迎え担当者の調整や駅での対面がなかなかうまくいかないこともあり、今後は迎えはなしとすることとした。

また、今回初めてのケースとして、宿泊施設でヘアカラー剤を使用し洗面台を汚した学生がいたこと、大学のプールを使用したいと申し出があったこと、学外見学時、学長の急用により公用車の運転手に定刻に対応してもらえなかったこと等も、記録として追記しておく。運転手遅れの件は、見学先に到着遅れの連絡を入れ、その後の時間割もずらすなどして対応したが、こういった予期せぬ事態にも臨機応変に対応できる備えが必要だと痛感した。

こういった諸々のハプニングはあったものの、全体としては、研修生も満足し、Buddies 学生や体験学習の講師も楽しめるプログラムになったことは、準備・実施担当教員としてほっとしている。研修生の修了作文を読むと、やはりホームステイについて書かれたものが多く、毎回ホストファミリーの皆様のご協力が本プログラムの成功に結び付いていると、感謝の念を新たにする。また、台湾の真理大学からの参加学生は、本学に留学中の同大の先輩と会ったり、過去に同大に留学していた本学日本人学生と会ったりと、思わぬ出会いも楽しんだようで、このような体験も本プログラムの思い出に色を添えてくれるものと思う。

３．第16回日本語語学研修プログラム

３－１．研修生

台湾より４名、韓国より５名、計９名の参加があった。内訳は、真理大学２名（台湾）、輔仁大学６名（台湾）、誠信女子大学１名（韓国）、韓国海洋大学４名（韓国）である。参加学生の専攻別に見ると、日本語専攻が３名、英語専攻が１名、その他５名（衣類、環境工学、海洋環境、船舶運航管理、経済）であった。

第16回にして初めて、協定大学である誠信女子大学から参加があったのは、非常に嬉しいことである。（当初、同大からは２名の応募があったが、残念ながらうち１名が体調不良のため直前にキャンセルとなった。）なお、この誠信女子大学からの１名は、後日、本学経済学部の教員と学生が同大を訪問した際、案内役として活躍してくれたと聞いている。プログラム終了後もつながりが継続・展開するのは嬉しい限りである。

３－２．研修期間

2012年１月30日㈪から２月10日㈮の２週間。

本プログラムの主な参加学生は台湾および韓国の出身者であるため、例年そうであるが、冬季プログラムの実施時期は、旧暦の正月に重ならないよう、配慮している。また、本学学生との交流の場が持てるよう、本学の期末試験時期とも重ねない配慮も必要である。

３－３．研修日程・研修内容

以下の日程で行った。

１／30㈪	午前：開講式、ガイダンス 午後：授業「総合」（担当：高水） 18：00～：情報交換会	２／５㈰	終日：ホームステイ
１／31㈫	午前：授業「日本事情」 （担当：ロン） ※時間内にインターナショナルオフィス長表敬訪問を含む。 午後：授業「総合」（担当：塩井）	２／６㈪	16：00まで：ホームステイ
２／１㈬	午前：授業「日本事情」 （担当：ロン） 午後：体験学習「書道」 （講師：書道部、担当：正楽）	２／７㈫	午前：授業「作文」（担当：塩井） 午後：体験学習「華道」 （講師：明石、担当：高水）
２／２㈭	午前：授業「日本事情」 （担当：ロン） 午後：授業「総合」（担当：塩井）	２／８㈬	午前：授業「作文」（担当：塩井） 午後：体験学習「茶道」（講師：石州流茶道部、担当：塩井）
２／３㈮	午前：授業「日本事情」 （担当：ロン） 午後：企業見学「石丸製麺」 （担当：ロン） 16：00～：ホストファミリーとの対面式、ホームステイ	２／９㈭	前日：学外実習「小豆島」 （担当：高水）
２／４㈯	終日：ホームステイ	２／10㈮	午前：授業「総合」（担当：高水） 16：30～：研修体験発表会 17：30～：修了式 18：00～19：30：意見交換・反省会

３－４．授業・体験学習・学外実習

授業科目は、授業数に比して科目の種類が多いという前回の反省をふまえ、今回は「総合」「作文」「日本事情」の３種類にしてみた。「総合」の中身としては、読む、書く、聞く、話すの４技能を総合的に扱うもの等であり、各時間の担当教員に一任される。

体験学習の茶道は、本学に三つある茶道部（表千家・裏千家・石州流）のうち、今回は石州流茶道部に講師を引き受けてもらい、石州流の作法を学んだ。

書道も、従来どおり本学書道部に講師として指導してもらった。従来同様、茶道も書道も、同世代同士で交流しながら楽しく日本文化を学べたようである。

学外実習では、今回初めて、１日かけて「小豆島」見学へ行くことした。これは、小豆島で外国人向けのツアーを企画・実施しているボランティア団体「島たび」からのお誘いがあったことに加え、毎年夏季プログラムでは、研修生も本学のICES･KUFSA主催の日帰り島旅行（男木島・女木島・小豆島の３つを毎年交代で旅行）に参加できるが、冬季には島へ行く機会がないこともあり、実施を決めたものである。本学の課外教育行事のように多人数だと入れないような、小さな醤油蔵等も見学でき、また、少人数ゆえ各種注意事項も徹底しやすく、いろいろメリットもあったようである。今後も、冬季プログラムにはこの小豆島見学を取り入れていきたいと考えている。

小豆島見学を取り入れたことにより、時間の都合等もあり、毎回行っていた「栗林公園」と「四国村」の見学は割愛した。研修生の中には、ホストファミリーとこれらの場所を訪問した者もいたようである。

３－５．その他

昨年度より各部局で開始されたJASSO「SSプログラム」（ショートステイプログラム）では、プログラム参加学生がインターナショナルオフィス長を表敬訪問している。我々の日本語語学研修プログラムでは、これまでこういった表敬訪問を行ってこなかったため、今回は初めて、研修時間内にインターナショナルオフィス長表敬訪問を行った。プログラムが始まって早い時期にこのような場を設けることで、研修生のモチベーションも上がったのではないかと思う。

Buddiesについては、今回よりプログラム終了後にBuddies反省会を行うこととした。残念ながら、日程の関係か参加者が少なかったが、皆国際交流に関心のある学生であるため、プログラム改善に向けての積極的な提案が多くなされ、我々教職員にとっても非常に有意義なものとなった。反省会で出された意見をふまえ、次回からはプログラム開始前にBuddies説明会と交流計画相談の場を設けることとしたい。

３－６．第16回プログラムを振り返って

前回の反省をふまえ、今回からチェックインの時刻を事前に指示していたが、それでも２名が大幅に到着が遅れ、教員がチェックイン時の対応ができないという事態が起こった。幸い、Buddies学生と､他の日本語が比較的できる研修生が対応してくれたため事なきを得たが､次回以降はチェックイン時の時間厳守について、より厳しく周知徹底しなければと思った。

初日の情報交換会は、５コマ授業後の18：00開始としていたにも関わらず、Buddiesの参加が少なく、やや残念であった。Buddiesへの行事参加の呼びかけを、もう少し徹底する必要があろう。ただ、Buddiesについて言えば、韓国へ語学研修に行った学生や韓国語を学習中の学生が、韓国人

研修生と韓国語で交流するといった時間も持てたようで、当該研修生は印象深かったという。

プログラム内容とは直接関係はしないが、期間中、本学の広報担当職員が研修生の写真を撮って、本学ホームページに掲載してくれた。これも今回初めてのことであったが、研修生にとって良い思い出になったのではないだろうか。

今回は、留学生センター専任教員で育児休暇中の者が１名いたため、他の教員でそのぶんを負担し合って運営した。非常勤講師のご協力もあり、無事終えられて安心している。

４．参考データ

以下に、第16回までの実施に関するデータを示す。（第１～16回の研修生は累計192名。）

《参考》　過去の実績　（ゴシックは協定大学）

	実施時期	期間	韓国							台湾			中国	
			韓国海洋大学	**南ソウル大学（※２）**	**大邱大学**	建国大学	蔚山科学大学	**ハンバット大学（※3）**	**誠信女子大学**	南台科技大学	**真理大学**	輔仁大学	**河北医科大学**	**北京工業大学**
第１回	2005／６／27～７／９	２週間	2	15										
第２回	2006／２／６～２／18	２週間	1							12				
第３回	2006／６／26～７／８	２週間		1	5									
第４回	2006／８／21～８／25	１週間											22	
第５回	2007／１／22～２／３	２週間								19				
第６回（※1）	（2007／６／27～７／28）	（４週間）	中　止											
第７回	2008／１／21～２／２	２週間				3					5			
第８回	2008／６／23～７／18	４週間		9										
第９回	2009／１／19～１／30	２週間				3	5				5	3		
第10回	2009／６／29～７／24	４週間		3	2	3					2	3		1
第11回	2010／１／25～２／５	２週間				1		5			3	3		2
第12回	2010／６／28～７／９	２週間	3			1		1				2		
第13回	2010／７／27～７／30	１週間											15	
第14回	2011／１／17～１／28	２週間	5									6		
第15回	2011／６／27～７／８	２週間	4								1	7		
第16回	2012／１／30～２／10	２週間	4						1		2	2		
大学別計（人）			19	28	7	11	5	6	1	31	18	26	37	3

※１　本学における百日咳および麻疹の流行により全学休講措置がとられたため、中止した。
※２　南ソウル大学は、2006年３月（第２回研修の翌月）に協定締結のため、第１回参加時には協定未締結。
※３　ハンバット大学は、2008年11月に協定を締結し、第11回より本研修に参加

留学生対象各種進学説明会

インターナショナルオフィス　高　水　　徹

平成23年６月から９月にかけて、日本語学校の留学生や教員を対象とした説明会に８回参加した（表を参照）。会場は高松、岡山、大阪、福山である。以前より、留学生センターとして、JASSO主催の大阪での説明会には参加してきているが、最近は、それ以外にも、民間の機関主催の説明会にも参加している。特に岡山での広報活動を重点的に行っているが、その理由は、毎年岡山の日本語学校から本学に進学する留学生が多く、地理的条件を考えれば、今後も多くの留学生の入学が見込めるからである。

実際に岡山の会場では、同様の説明を行い、一見類似した質問を受けた場合でも、他の会場よりも詳細な内容であり、より真剣かつ具体的に本学への進学を検討している様子が伝わってきた。岡山ビジネスカレッジの説明会においては、本学の部屋を訪れた学生は、参加校の中で最も多かったようである。

今年度初めて、高松においてもこの種の説明会が実施された。形態としては、穴吹ビジネスカレッジ（日本語学科）の校内進学相談会であり、平成23年９月15日㈭に実施された。参加した学生は穴吹ビジネスカレッジの学生のみであったが、外部の会場を借り、複数の教育機関が資料参加や会場参加を行っていた点で、他の説明会と同様であった。高松でこのような会が開催されたのは初めてであり、本学にとっても貴重な広報の場となった。穴吹ビジネスカレッジは、本学から最も近い日本語学校であり、以前から本学へ多数の留学生が進学している。本学ブースには23名が訪れた。他の会場とは異なり、地理的なことや交通機関に関する質問などはなく、その分試験制度に質問が集中していた。

これらの国内での広報活動の一環として、今年度は初めて留学生センターとしてオープンキャンパスに参加した。研究交流棟にブースを設け、学生の海外留学や国際交流の情報を提供するという試みであったが、残念ながら来訪者が非常に少なかったため、来年度の実施については再考する必要がある。

さらに、今年度も海外におけるJASSO主催の、またはそれに準ずる日本留学フェアに参加している。

平成23年９月２日㈮、４日㈰に、タイのチェンマイ、バンコク会場にて、ブースを設置して広報活動を行った。

チェンマイ会場では、本学では農学部で扱われる分野に多くの関心が集まった。全体としては高校生の参加が多かったことが印象的で、彼らの多くは、高校の用意したバスによって、教員に引率されてきていた。

一方で、バンコク会場では、大学生の参加が多く、したがって大学院関連の質問が多くあった。分野としては工学系が多かったのが特徴である。もう１つの特徴として、英語で教育が行われる国際コースの存在を何度も問われたことが挙げられる。

全体として、タイからも私費留学の動きが広がりつつあるようなので、多様な分野から本学への興味が集まり、留学へとつながってくれることを願っている。

さらに、平成23年12月10日㈯および11日㈰の２日間、マレーシアのクアラルンプールで行われた

日本留学フェア（国際教育展）に参加した。タイでのフェアは日本単独のフェアとしてJASSOが主催するものであったが、マレーシアではFACON Education Fairという教育展の中の日本セクションに本学がブースを出す形態であった。

日本ブース全体の参加者は10日が1,475名、11日が1,477名ということで少なくはなかったが、タイの場合と比較すると、パンフレットのみ受け取ってブースを立ち去ってしまうケースが多く、立ち止まった来訪者でも、「授業が日本語で行われる」と聞いて、すぐに立ち去ってしまうこともあった。日本ブース全体が、英語圏のブースに比べてかなり苦戦を強いられていた。

一方で、現地の日本語学校である帝京マレーシア日本語学院の学生も多く訪れ、日本語で質問していた。同校へはフェアの前日に訪問することができ、現地の日本語教育事情などを伺うことができた。フェア自体は厳しい状況であったが、同校には本学への進学希望者がおり、本学への留学が期待される。

6月25日	大阪	チサンホテル新大阪
7月6日	岡山	3丁目劇場
7月9日	大阪	グランキューブ大阪
7月23日	福山	福山市生涯学習プラザ
7月29日	岡山	岡山ビジネスカレッジ
9月2日	チェンマイ（タイ）	The Imperial Mae Ping Hotel
9月4日	バンコク（タイ）	Asia Hotel Bangkok
9月8日	大阪	大阪国際交流センター
9月15日	高松	高松センタービル
9月30日	岡山	岡山外語学院
12月10日 11日	クアラルンプール （マレーシア）	Putra World Trade Centre

課外教育行事

インターナショナルオフィス　高　水　　徹

第１回

平成23年９月28日㈬から29日㈭にかけて、第１回外国人留学生課外教育行事を行った。

今回の参加学生は32名で、そのうち２名は日本人学生である。今回は、チューター等として留学生に関わる日本人学生にも参加を認めたため、これらの学生が参加した。

初日は、愛媛県のタオル美術館 ICHIHIRO を見学した。同施設は、タオル地のアートを展示する美術館としての側面に加えて、タオルの生産技術に関する展示する資料館的な側面も有している。続いて、同県内の「伯方の塩」工場を見学し、塩の製造工程、各種製品、伝統的な生成技術などについて学んだ。

宿泊は広島県福山市の自然研修センターを利用した。この種の宿泊施設に関しては、事前の計画、料金の支払い等、実施面で旅行会社を通すことが不可能だったため、行程の他の部分との調整等で困難な面があった。

２日目は同施設において竹細工の体験を行い、各留学生は竹スプーンを制作した。その後宿泊施設を出発し、JFE スチール西日本製鉄所を見学した。見学予定だった生産ラインが一部止まってしまい、予定通り見学できないというハプニングもあったが、別の工程や積み上げられた原材料等を見学することができた。

例年、企業見学に関しては地理的な制約もあり、完全にこちらの意図する種類の企業が見学できるとは限らないが、可能な限り今回のように、異なる種類の企業を含めていきたい。

第２回

平成23年10月31日㈪、第２回は課外教育行事を実施した。今回のコース設定は、香川県に焦点を当てて行った。62名の留学生が参加した。

まず、大庄屋のうどん工場を見学し、製造工程や原材料について学習した。その後、日本最大の貯水池である満濃池周辺に移動した。池では、「まんのう池コイネット」の協力を得て、池自体や「ゆるぬき」に関する説明を受けることができた。その後、まんのう公園に移動し、自然生態園をガイドの解説付きで散策することができた。こちらは散策しながらの自然観察が中心となった。

満濃池周辺での活動は、どちらもガイドの皆様のご協力なくしては成立しない、貴重な機会であった。内容的にも、エコツアー的な機会は留学生にとって珍しいものであり、今まであまり触れることのなかった日本の側面を学ぶことができたと考えられる。一方で、工場見学に関しては、観光気分の学生が多く、態度の面で反省すべき点があった。

地域住民との交流及び連携

インターナショナルオフィス　ロン　リム

以前と同様、地域住民との取り組みは、二つの側面から構成されている。一つ目の側面は、「KUFSA 香川大学留学生会」と「ICES 香川大学異文化交流会」という学生主体で実施されている活動である。もうひとつの側面は、大学を一つの組織として、県内の団体との連携である。

KUFSA（クフサ）と ICES（アイセス）は、Kagawa University Foreign Students Association と香川大学の Inter-Cultural Exchange Society のそれぞれの頭文字から作られた名称である。クフサは1997年４月、アイセスは1999年12月に設立された。本学の全ての留学生はクフサの会員であり、アイセスの部員は日本人学生である。アイセス設立以来、クフサと協力して今日まで多数なイベントや企画をしてきている。主な連携している地域の団体は、仏生山国際交流会と綾川国際交流会、高松東ライオンズクラブ、香川国際文化会である。恒例の活動は下記の通りである。

４月　歓迎ティーパーティー
７月　島めぐり旅行
８月　世界の食文化会
10月　歓迎ティーパーティー、お茶会
11月　うどん作り研修会
１月　さぬきお正月会
２月　さよならパーティー

４月と10月の新入留学生歓迎ティーパーティーは、当初、クフサとアイセスが企画して主催した事業である。地域の団体、特に仏生山国際交流会と綾川国際交流会の支援を得て、飲み物やお菓子、果物を提供して頂いた方式だった。近年、留学生センターが主催になって、アイセスは受付とビンゴゲームの担当として協力をしている形になっている。

７月上旬に、クフサとアイセスは島めぐり旅行の企画や実施をした。これは、毎年の夏、一つの島を選んで、留学生と日本人学生は一日その島で一緒に海水浴やビーチゲームをして来る取り組みである。2011年のスポットは男木島で、11カ国・地域から、111人の参加者があった。男木島でのシニアクラブや観光局の協力で、海の家やトイレの施設を利用することができた。

毎年の島日帰りイベントは、高松東ライオンズクラブの支援や協力で運営されている。1997年以来、参加者は累計1987人になった。国籍別を見ると、多い時は23カ国や地域の人々が参加してくれた。

綾川国際交流会主催の「世界の食文化」の事業は大体８月中に行われている。1998年以来、毎年、クフサを経由して、国自慢料理の講師として、留学生は参加している。学生出身国は2011年時点、

日本を含めて、25カ国にのぼって、学生の参加者は141名になっている。2011年８月に中国をはじめフランス、ロシア、日本の11名の学生が参加してくれた。

10月に香川国際文化会主催のお茶会が実施された。ここ数年、クフサを通じて本学の留学生が参加している。2011年は、中條文化振興財団の美藻庵・晴松亭で行われ、８名の留学生が参加した。

11月は綾川国際交流会による、うどん作り体験講習会と紅葉狩りのイベントである。このイベントは2007年から始まった。2011年には台湾やインドネシア、マレーシアから６名の留学生が参加した。

2008年に発足された「さぬきお正月会」というイベントは、以来、毎年１月上旬に実施してきた。餅つきやお雑煮、大福、もち米のカレーライスなどを賞味しながら香川の正月を体験して貰う趣旨である。支援して下さるのは、高松東ライオンズクラブと仏生山国際交流会の方々である。アイセスとクフサは受付や会場設置、片づけなどの協力する役割である。2011年に、学生と関係者の参加者数は69人で、発足の2008年から2011年までの参加者総数は329名になる。

卒業あるいは修了する留学生のため、毎年２月に送別ティーパーティーを開催している。後輩の留学生たちやアイセスの部員は卒業生と修了生を送る形式である。４月と10月の歓迎ティーパーティーとおよそ同じような方式で実施している。仏生山国際交流会をはじめ、綾川国際交流会、香川日韓交流協会の方々はお菓子や果物を提供して下さっている。

もうひとつの側面は、香川大学は「香川県留学生等連絡協議会」の事務局として取り組んでいる。本協議会は、香川県内に滞在する外国人留学生・研修生等間の交流とこれら留学生等と地域住民との交流を通じて、相互の親睦を図るために必要な連絡並びに協議を行うことを目的として、昭和63年２月に設立された。構成団体は県内の市町村や企業、民間団体で、数はおよそ40団体である。年に１回、作文コンテストを実施していて、2011年、第８回になった。また、県内の留学生のため、企業見学や就職支援の活動も企画している。

就職支援プログラム

インターナショナルオフィス　高　水　　徹

外国人留学生就職活動準備セミナー

平成23年12月18日㈰、日本学生支援機構主催の「外国人留学生就職活動準備セミナー」に参加するため、バスツアーを実施し、留学生18名が参加した。

この行事は、留学生を対象とした就職支援プログラムの一環であり、早い段階で就職に関する情報や必要なスキルを習得するための機会を与えることを意図している。

このセミナー自体は、知識やスキル習得のための内容と、各企業による説明会で構成されており、会場も複数に分かれて同時進行という形態をとっていた。就活オリエンテーション会場では、日本の就活スケジュール、留学生の就職状況、企業が留学生に期待すること等に関する説明が行われた。個別企業相談ブースでは、合同企業説明会の形式で、採用担当者から企業の概要等についての説明および質疑応答が行われていた。また、ブース以外に、いくつかの企業は個別会場での説明会を行っていたが、こちらに関しては、基本的には学生以外入場できないものであった。

留学生のための就職セミナー＆ビジネスマナー講座

平成24年１月13日㈮、「留学生のための就職セミナー＆ビジネスマナー講座」をアルファあなぶきホール内ギャラリーカフェ「シレーヌ」で実施した。

就職セミナーでは、クリエアナブキの就活専門アドバイザーより、留学生を取り巻く現状についての説明があった。さらに、それを踏まえた上でどのように活動していくべきかについて、基本的なマナーの側面や、留学生の特長を活かしたアピールの側面から助言がなされた。

ビジネスマナー講座では、日本料理食卓作法講師資格を有する割烹店長より、和食の文化や背景についての説明を受けながら、食事の作法を実践し、社会人として必要なスキルを学んだ。本講座実施の背景としては、本学の留学生より、日本食のマナーに自信が持てないという声が上がったことがあった。その要望には十分に応えられたことと思う。

本講座で提示されたスキルはややレベルの高いものだったため、慣れていない留学生は関係教職員から見ると必要以上に緊張していたようだが、実践を通して様々な情報や技術を習得できる、有意義なセミナーおよび講座となった。

企業見学会

平成24年２月29日㈬、留学生を対象とした企業見学会を実施した。この行事は、課外教育行事に組み込まれた見学とは異なり、就職支援の一環として実施したものである。また、今年度より、本学単独ではなく、香川県留学生等国際交流連絡協議会として実施している。参加者留学生数は23名だった。

今回の見学先企業は株式会社マキタであった。四国で唯一の船舶用ディーゼルエンジンメーカーである同社の概要を学び、実際に製造しているラインをかなり詳細に見学することができた。恐らく、県内からの留学生の見学ということで、お気遣いいただいたものと推察される。

実施面では、連絡協議会としては初めての企業見学会ということで、学生との連絡面等で多少の

困難が生じたが、本学学生のみの見学とは別に、香川県内の機関が連携を深め、学生同士が一緒に行事を行い、知見を得る機会は貴重であり、今後ともぜひ継続していきたい。

表１　平成23年度留学生就職支援概要

	開催日	参加者数	実施場所等	備　　考
外国人留学生就職活動準備セミナー参加のためのバスツアー	2011/12/18	18	大阪国際交流センター	セミナーはJASSO主催
留学生のための就職セミナー&ビジネスマナー講座	2012/1/13	19	アルファあなぶきホール内ギャラリーカフェ「シレーヌ」	クリエアナブキ
企業見学会	2012/2/29	7	株式会社マキタ	香川県留学生等国際交流連絡協議会運営費。他機関から16
日本事情（留学生対象授業）	前　期			正楽教員

表２　卒業・修了留学生の進路（平成22年度データ）

進路先	人数
就職(県内)	10
就職(県外)	4
就職(海外)	7
進　　学	6
そ　の　他	4
合　　計	31

就職先（産業別）	人数
製造業	11
学術研究、専門・技術サービス業(研究者等)	4
医療・福祉（医師・看護師）	2
小売業	2
金融・保険業	1
情報通信業	1
合　　計	21

進　学
　香川大学大学院工学研究科、愛媛大学大学院連合農学研究科　他

就　職（国内）
　四国化成工業㈱、富士産業㈱、ヨークス㈱、旭金属工業㈱　他

就　職（海外）
　Rohm-Wako Electronics（Malaysia）、Kobe Precision（Malaysia）、
　河北医科大学第一附属病院（中国）　他

香川大学インターナショナルオフィス規則

（趣旨）

第１条　この規則は、国立大学法人香川大学組織規則第18条の２の規定に基づき、香川大学インターナショナルオフィス（以下「オフィス」という。）に関し必要な事項を定める。

（目的）

第２条　オフィスは、香川大学（以下「本学」という。）の国際交流の窓口機関として、情報収集及び発信を一元化すると共に、国際戦略の構築並びに教育研究等の国際的な連携、学内の各組織の有機的な連携、地域の国際交流・協力活動との連携を推進することで、本学並びに地域の国際交流の推進に資することを目的とする。

（構成）

第３条　オフィスは前条の目的を達成するために、次の各号に掲げる組織を置く。

⑴　国際研究支援センター

⑵　留学生センター

２　前項の組織に関し必要な事項は別に定める。

（業務）

第４条　オフィスはオフィスを構成する組織の相互の連携協力を図ると共に、次に掲げる業務を行う。

⑴　本学の国際化基本方針に基づき、国際交流に係る企画及び立案に関すること。

⑵　国際交流協定の締結、その他の外国の機関との交流に関すること。

⑶　国際交流活動に係る情報を収集・分析し、国際交流の推進に必要となる情報を学内外へ提供し、国際的な情報発信の強化に関すること。

⑷　国際交流推進事業展開のための外部資金獲得に関すること。

⑸　地域における国際交流の支援に関すること。

⑹　国際交流に係る危機管理に関すること。

⑺　その他オフィスの管理・運営並びに本学の国際交流推進に関し必要な業務に関すること。

（組織）

第５条　オフィスは、次の各号に掲げる者で組織する。

⑴　オフィス長

⑵　専任教員

⑶　その他必要な職員

２　オフィスに副オフィス長を置くことができる。

３　オフィスに、部局に所属しオフィスの業務を兼任する教員（以下「兼任の教員」という。）を置くことができる。

（オフィス長）

第６条　オフィス長の任命は、本学教職員の中から学長が指名する理事又は副学長（以下「担当理事又は副学長」という。）の推薦に基づき、学長が行う。

２　オフィス長は、オフィスの業務を掌理する。

３　オフィス長の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、オフィス長を任命する学長の任期の末日以前とする。

４　前項の規定にかかわらず、オフィス長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（オフィス長の選考時期）

第７条　オフィス長の選考は、次の各号の一に該当する場合に行う。

⑴　任期が満了するとき。

⑵　辞任を申し出たとき。

⑶　欠員となったとき。

２　オフィス長の選考は、前項第１号の場合には任期満了の一月以前に、同項第２号又は第３号の場合には速やかに、行うものとする。

（副オフィス長）

第８条　副オフィス長の任命は、本学教職員の中から担当理事又は副学長の申し出に基づき、学長が行う。

２　前項の申し出はオフィス長が副オフィス長候補者を担当理事又は副学長に推薦することにより行う。

３　副オフィス長はオフィス長の業務を補佐する。

４　副オフィス長の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、副オフィス長を任命する学長の任期の末日以前とする。

５　前項の規定にかかわらず、副オフィス長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（専任教員）

第９条　専任教員の選考に関し必要な事項は別に定める。

（兼任の教員）

第10条　兼任の教員は、本学専任教員で国際交流の推進に関し専門的知識及び経験を有する者のうち、担当理事又は副学長の推薦に基づき、学長が委嘱する。

２　兼任の教員の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、兼任の教員を指名する学長の任期の末日以前とする。

３　前項の規定にかかわらず、兼任の教員が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（会議）

第 11 条　オフィスに、オフィスの重要事項を審議するため、香川大学インターナショナルオフィス会議（以下「オフィス会議」という。）を置く。ただし、オフィス会議の議決事項については、担当理事の承諾を経て決定されるものとする。

2　オフィス会議に関し必要な事項は担当理事が別に定める。

（事務）

第 12 条　オフィスの事務は、部局の協力を得て国際グループにおいて処理する。

（雑則）

第 13 条　この規則に定めるもののほか、オフィスの業務に関し必要な事項は、別に定める。

附　則

この規則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

1　この規則は、平成 21 年 10 月 1 日から施行する。

2　第 11 条の担当理事は、当分の間、担当副学長と読み替えて適用する。

香川大学インターナショナルオフィス会議規程

（趣旨）

第１条　この規程は、香川大学インターナショナルオフィス規則（以下「オフィス規則」という。）第11条に規定する香川大学インターナショナルオフィス会議（以下「オフィス会議」という。）に関し必要な事項を定める。

（組織）

第２条　オフィス会議は、次に掲げる委員をもって組織する。

⑴　オフィス長

⑵　オフィス規則第５条第２項に定める副オフィス長

⑶　オフィス規則第３条第１項に定める組織の長

⑷　専任教員

⑸　オフィス規則第５条第３項に定める兼任の教員

⑹　教育・学生支援部長

⑺　学術部長

⑻　国際グループリーダー

⑼　その他オフィス長が必要と認めた者

２　前項第９号の委員は、学長が任命する。

（審議事項）

第３条　オフィス会議は、次に掲げる事項について審議する。

⑴　本学の国際化基本方針に基づく国際戦略の企画・推進に関する事項

⑵　規則その他の制定又は改廃に関する事項

⑶　組織の設置又は廃止に関する事項

⑷　教員の選考に関する事項

⑸　予算及び施設・設備に関する事項

⑹　評価に関する事項

⑺　その他オフィス長が必要と認める事項

（会議の主宰及び議長）

第４条　オフィス会議に議長を置き、オフィス長をもって充てる。ただし、オフィス長に事故あるときは、あらかじめオフィス長の指名した者がその職務を代行する。

２　議長は、オフィス会議を主宰する。

３　オフィス会議は、議長の招集により開催するものとする。

（会議の議事運営）

第５条　オフィス会議は、構成員の過半数の出席がなければ、議事を開くことができない。

２　議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3　第3条第1項第4号及び第6号の議事については、第2条第1項第9号の委員は可否の数にかかわることができない。
4　第2項にかかわらず、特別の必要があるとオフィス会議が認めるときは、第2項に定める要件以外の定めをすることができる。

（構成員以外の者の出席）
第6条　議長は、必要があるときは、オフィス会議の承認を得て、構成員以外の者を会議に出席させることができる。ただし、この者は、可否の数に加わることができない。

（事務）
第7条　オフィス会議の事務は、国際グループにおいて処理する。

（雑則）
第8条　この規程に定めるもののほか、オフィス会議の議事及び運営の方法について必要な事項は、オフィス会議が別に定める。

附　則
この規程は、平成21年4月1日から施行する。
附　則
この規程は、平成21年10月1日から施行する。

香川大学国際研究支援センター規程

（趣旨）

第１条　この規程は、香川大学インターナショナルオフィス規則（以下「オフィス規則」という。）第３条第２項の規定に基づき、香川大学国際研究支援センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

（目的）

第２条　センターは、香川大学（以下「本学」という。）における国際的な研究交流の支援及び本学の国際化基本方針に基づく国際戦略の実施について中心的な役割を果たすことにより、本学における国際的な学術交流の推進に寄与することを目的とする。

（業務）

第３条　センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

⑴　特色ある国際共同研究及び国際展開プロジェクトの企画・開発及び推進に関すること。

⑵　海外の研究機関との交流に関すること。

⑶　海外学術ネットワークの強化に関すること及び海外の学術動向に関する調査に関すること。

⑷　海外教育研究拠点校との学術交流の支援に関すること。

⑸　各部局が実施する学術交流の支援に関すること。

⑹　その他前条の目的を達成するために必要な業務。

（職員）

第４条　センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

⑴　センター長

⑵　センター担当教員

⑶　その他必要な職員

２　センターに、副センター長を置くことができる。

（センター長）

第５条　センター長の任命は、本学専任教授の中からインターナショナルオフィス長（以下「オフィス長」という。）が学長が指名した理事又は副学長（以下「担当理事又は副学長」という。）に申出を行い、担当理事又は副学長の推薦に基づき、学長が行う。

２　センター長は、センターの業務を掌理する。

３　センター長の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、センター長を任命する学長の任期の末日以前とする。

４　前項の規定にかかわらず、センター長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（副センター長）

第６条　副センター長の任命は、オフィス長が担当理事又は副学長に申出を行い、担当理事又は副学長の推薦に基づき、学長が行う。

２　前項の申出は、センター長とオフィス長の協議により行う。

３　副センター長は、センター長を補佐し、センターの業務を整理する。

４　副センター長の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、副センター長を任命する学長の任期の末日以前とする。

５　　前項の規定にかかわらず、副センター長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（センター担当教員）

第７条　センター担当教員の任命は、センター長の推薦に基づき、担当理事又は副学長の了承を得てオフィス長が行う。

（事務）

第８条　センターに関する事務は、国際グループにおいて処理する。

（雑則）

第９条　この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附　則

この規程は、平成21年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成21年10月１日から施行する。

香川大学留学生センター規程

（趣旨）

第１条　この規程は、香川大学インターナショナルオフィス規則（以下「オフィス規則という）第３条第２項の規定に基づき、香川大学留学生センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

（目的）

第２条　センターは、外国人留学生（以下「留学生」という。）及び海外留学を希望する香川大学（以下「本学」という。）の学生に、必要な教育及び指導助言等を行うことにより、本学における国際交流の推進に寄与することを目的とする。

（業務）

第３条　センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

⑴　留学生の受入に関すること。

⑵　留学生に対する日本語等の教育に関すること。

⑶　留学生に対する修学上及び生活上の指導助言等に関すること。

⑷　留学生に係る奨学に関すること。

⑸　留学終了者に対するフォローアップに関すること。

⑹　学生の海外留学に関すること。

⑺　地域における留学生交流に関すること。

⑻　留学生教育等に係る調査研究に関すること。

⑼　留学生会館の管理・運営並びに入退居に関すること。

⑽　その他センターの管理・運営並びに学生の国際交流に関すること。

（職員）

第４条　センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

⑴　センター長

⑵　センター担当教員

⑶　その他必要な職員

２　　センターに、副センター長を置くことができる。

（センター長）

第５条　センター長の任命は、本学専任教授の中からインターナショナルオフィス長（以下「オフィス長」という。）が学長が指名した理事又は副学長（以下「担当理事又は副学長」という。）に申出を行い、担当理事又は副学長の推薦に基づき、学長が行う。

２　センター長は、センターの業務を掌理する。

３　センター長の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、センター長を任命する学長の任期の末日以前とする。

4　前項の規定にかかわらず、センター長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（副センター長）

第6条　副センター長の任命は、オフィス長が担当理事又は副学長に申出を行い、担当理事又は副学長の推薦に基づき、学長が行う。

2　前項の申出は、センター長とオフィス長の協議により行う。

3　副センター長は、センター長を補佐し、センターの業務を整理する。

4　副センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、副センター長を任命する学長の任期の末日以前とする。

5　前項の規定にかかわらず、副センター長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（センター担当教員）

第7条　センター担当教員の任命は、センター長の推薦に基づき、担当理事又は副学長の了承を得てオフィス長が行う。

（事務）

第8条　センターに関する事務は、国際グループにおいて処理する。

（雑則）

第9条　この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附　則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附　則

この規程は、平成21年10月1日から施行する。

インターナショナルオフィス教職員一覧

2011.10.1

教　員　※（兼）は兼任を示す

《インターナショナルオフィス》

（兼）オフィス長／板野　俊文

（兼）副オフィス長／客員教授／飯田　豊彦

（兼）副オフィス長／教授／ロン・リム

講師／細田　尚美

講師／塩井　実香

講師／高水　　徹

講師／正楽　　藍

（兼）教授／徳田　雅明　（医学部）

（兼）教授／ラナデ　R．R.　（経済学部）

（兼）教授／加藤　　尚　（農学部）

（兼）教授／新井　信之　（連合法務研究科）

（兼）教授／澤田　秀之　（工学部）

（兼）准教授／高木由美子　（教育学部）

（兼）准教授／金　　宗郁　（法学部）

（兼）准教授／八木　陽一郎　（地域マネジメント研究科）

〈国際研究支援センター〉

（兼）国際研究支援センター長／飯田　豊彦

〈留学生センター〉

（兼）留学生センター長／ロン・リム

非常勤講師／大野呂節子

非常勤講師／早川　理代

非常勤講師／和田　方子

事務職員

《国際グループ》

リーダー／濵田　　太

担当　総括

サブリーダー／宮下真来枝

インターナショナルオフィス業務

グループ員／浅野　文恵

留学生業務

グループ員／市村佳央里

留学生業務

グループ員／中塚紗和子

留学生業務

グループ員／古島　　愛

国際交流業務

グループ員／八木綾衣子

国際交流業務

グループ員／野田　順子

国際交流業務

グループ員／杉浦美智子

留学生会館業務

香川大学インターナショナルオフィス年報　第３号

発　行　平成25年３月31日
発行者　香川大学インターナショナルオフィス
〒760－8521　香川県高松市幸町1－1
TEL：087－832－1194
FAX：087－832－1192
印刷所　牟禮印刷株式会社
TEL：087－822－2600（代）
FAX：087－822－0567，826－1448